

令和8年度

埼玉県教育委員会 地域学校協働活動研修会

これからの時代に求められる
地域学校協働活動とコミュニティ・スクール
学校支援から地域づくりへと広げ、深める視点と工夫

文部科学省 総合教育政策局 CSマイスター（石川・福島担当）

元 文部科学省 学校地域連携協働推進PT 連携支援係長

金沢大学 先端科学社会共創推進機構 客員研究員

能登復興教育アドバイザー 猿渡 智衛

論点整理

令和7年9月25日
中央教育審議会
教育課程企画特別部会

目次

本特別部会においては、令和6年12月の文部科学大臣による諮問を受け、初等中等教育分科会や教育課程部会への報告を交えつつ、教育課程の枠組みに関する事項や教科横断的な事項を中心として審議を行ってきた。今般、13回にわたる検討の結果を暫定的に取りまとめ、今後の本特別部会における更なる検討の深化や各WG等での検討の前提として整理した。

第一章 次期学習指導要領に向けた基本的な考え方 …… P.2	第四章 情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現 …… P.47
第二章 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方 …… P.7	(1) 情報活用能力の抜本的向上 …… P.48
(1) 中核的な概念等を活用した一層の構造化・表形式化・デジタル化 …… P.8	(2) 質の高い探究的な学びの実現 …… P.55
(2) 「学びに向かう力、人間性等」の再整理 …… P.15	第五章 「余白」の創出を通じた教育の質の向上の在り方 …… P.62
(3) 「見方・考え方」の再整理 …… P.19	第六章 豊かな学びに繋がる学習評価の在り方 …… P.70
(4) デジタル学習基盤を前提とした学びの在り方 …… P.22	第七章 その他諮問で提起された事項の在り方 …… P.79
第三章 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方 …… P.25	(1) カリキュラム・マネジメントの在り方 …… P.80
(1) 検討の前提（児童生徒の実態と現行制度の枠組み）…… P.26	(2) 高等学校入学選抜 …… P.82
(2) 義務教育段階（「調整授業時数制度」の創設等）…… P.30	(3) 産業教育 …… P.84
(3) 高等学校段階における教育課程の柔軟化 …… P.35	(4) 特別支援教育 …… P.90
(4) 個別の児童生徒に係る教育課程の編成・実施の仕組み …… P.42	(5) 幼児教育 …… P.96
	(6) 子供のより主体的な社会参画に関わる教育の改善 …… P.100
	第八章 今後の検討スケジュールや検討の在り方等 …… P.104
	審議経過 …… P.107

※本論点整理において「学習指導要領」という際、第一章～第二章においては「幼稚園教育要領」を含む

今回の改訂は
150年に一度の大改訂
とされています。











これまでの「当たり前」からの脱却

(1) 日本全国どの地域の学校も**教育内容は同一からの脱却**

(2) **「横並び」、「出る杭は打つ」からの脱却**

(3) 「知・徳・体」、「国・社・数・理・英」の
調和的発達主義からの脱却

(4) 学力検査重視の高校入試からの脱却

次期学習指導要領で目指す子ども像

生涯にわたって主体的に学び続け、
多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる
民主的で持続可能な社会の創り手

大切なワードは実は…

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

補足イメージ 1 - ①

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

主体的・対話的で

① 深い学びの実装 (Excellence)

主に第2,3,4,6章

(生きて働く「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体化・深化、「好き」を育み「得意」を伸ばす、情報活用能力の抜本的向上、個別最適な学び・協働的な学び 等)

主に第5,7章

(授業時数の適正化・平準化、教科書の精選、構造化、裁量的な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出、カリキュラム・マネジメント 等)

② 多様性の包摂 (Equity)

主に第3,7章

(調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザイン、個別最適な学び・協働的な学び 等)

③ 実現可能性の確保 (Feasibility)

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

次期学習指導要領で期待されるもの

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

補足イメージ1-②

自らの人生を舵取りする力 と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成（今後の検討イメージ）

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
（興味・関心）

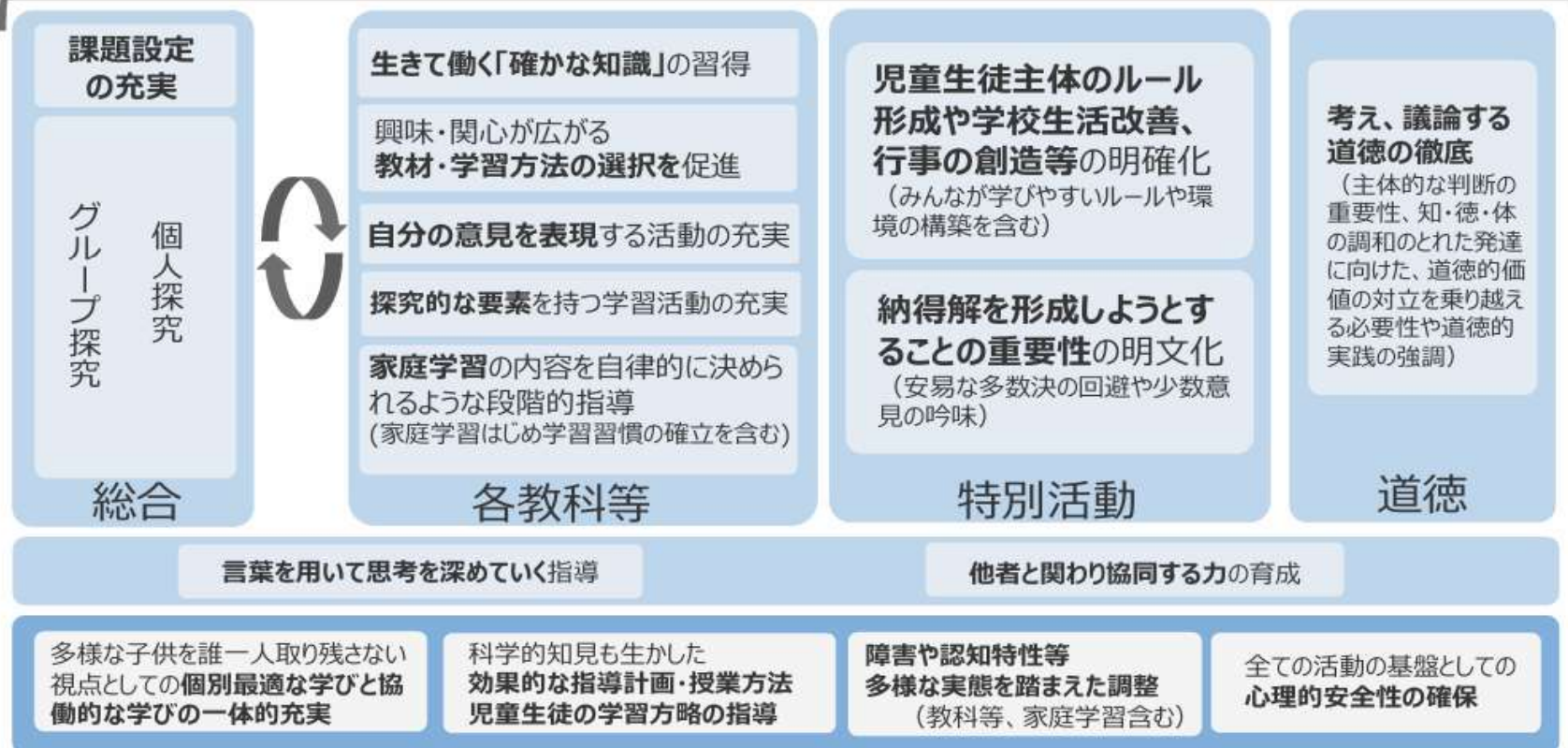


当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした
主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼



学びをデザインする高度専門職としての教師
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
総合的な勤務環境整備

これから期待される 新しい「学社連携」のパターン

放課後等における体験・学習活動の高度化

学校教育(小3)
年間 980コマ (1コマ45分)

放課後等の時間(平日・土曜日・長期休業日)
年間 約1600時間

学校教育における
総合的な学習の時間
(探究学習)

深化・発展

放課後子供教室
等での探究学習

個別の
調べ学習等

学校教育における
総合的な学習の時間
(探究学習)

放課後子供教室等
での探究学習

学校教育における
総合的な学習の時間
(探究学習)

課題発見

放課後子供教室等
での活動

クラスでの
共有・深化

そして、「子どもたちも一緒に!!!」の視点



子供のより主体的に社会参画に関わる教育に関する現状と課題

【現状】

1. 現行学習指導要領までの改善

- 教育基本法では、教育の目的（第一条）として、教育は「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」を備えた国民の育成を期して行われなければならない、と規定
- 選挙権年齢の引き下げに伴い、主体的な社会参画等に必要な力を身に付ける新科目「公共」を高校に新設するとともに、総務省と協力して、政治や選挙等に関する副教材を作成し、毎年全高校1年生に配布
- 現行学習指導要領では、社会科を中心に政治的教養を育む教育を充実するなどの改善を図るとともに、特別活動では「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすること」や「自分たちできまりをつくって守る活動などを充実すること」を明示
- こうした中、特に高等学校を中心として、選挙管理委員会等との連携により模擬議会、模擬投票等の取組も見られる

2. こども基本法の制定など近年の動き

- 「こども基本法」（令和5年施行）では、子供の権利の保障、意見表明及び社会参画の機会の確保、子供の最善の利益の考慮等を基本理念として規定
- 令和4年に生徒指導提要が改訂され、「発達支持的生徒指導」の考え方が示されるとともに、子供の生活に影響を及ぼし得る校則については、子供の意見を聴取した上で定めていくことが望ましい旨規定された
- こうした中、校則の見直しや生徒によるルール形成の取組なども中学校・高等学校を中心として広がりを見せつつある
- 18歳の社会参画に関する意識は改善傾向であるものの、諸外国と比べると改善の余地が大きい。10-20代の投票率は、約3割と低い状況が続いている一方、家庭や学校、地域で「ルール決めに関わった経験がある」場合、「普段から投票に行っている」と回答する割合が高いなどの調査結果も出ている

【課題】

1. 教育内容面の課題

- 選挙権年齢の引き下げに伴い、高校教育において特に大きな改善を図ったが、更なる取組の余地がある。また、中学校において校則見直しなどの取組が進む一方、子供の関わりが十分ではない例が見られるほか、小学校においても、学校運営上の様々な場面において、子供の主体的な参画の余地が大きい
- 小中高を通じて、GIGAスクールで整備されたクラウド環境を活かして、意見を可視化したり、少数意見を吟味したりして、よりよい合意を実現する取組が進みつつあるが、道半ば
- 我が国の学校教育の長所であるはずの協調性の涵養が、ともすれば集団性の強調に陥り、子供にとって意義が不明確な校則や学級ルールなどの存在とも相まって、「同調圧力」への偏りを生んでいる側面も指摘されている。また、意見表明の機会の確保や対話や協働を通じた参画の機会は、多様性を包摂する教育の実現にとっても重要であるが、十分に整備されているとは言えない

2. 学校・社会の受け皿などの課題

- 子供の意見を授業や教育課程に活かす仕組みや、その際の指導技術などが未成熟という課題もある
- 子供を社会の一員として受け止め、その意見を政策や社会の仕組みづくりに活かす地域・社会の受け皿が不足している



- 総じて、子供たちにとって身近な社会である学級・学校をフィールドにして、意見表明の機会、合意形成の機会、参画の機会をより充実させる余地があるものと考えられる。そのために、学習指導要領において関連する教育内容を適切に盛り込むとともに、教員研修を含め、必要な条件整備を図る必要がある

未来の埼玉のまちを創るのは子どもたち!!!



具体的な方向性と論点

1. 子供の社会参画に関わる教育内容の充実

<全ての教科を通じた改善>

- ① 社会科・公民科を中心としつつ、関連する教科等のWGで、子供の社会参画や意見表明を推進する観点から、見直すべき点がないか検討すべき
※模擬議会・模擬選挙など、地域社会と連携した実践的な学習活動の推進方策については、総務省と協議
- ② 全ての教科等を通じて、自分の意見の根拠を持った説明、一方的な意見の主張に止まらない対話を含む「協働的な学び」を一層重視すべき
※フィルターバブル・エコーチェンバーの影響が強く指摘される中、第四章（1）では情報モラルやメディアリテラシーの向上を含む情報活用能力の抜本的向上の方策を整理しているが、これらも社会参画に関わる教育内容の改善の一環として捉えつつ、今後関連する教科等のWGで検討を深める

<特別活動における改善>

※ 特別活動：「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、よりよい集団や学校生活を目指して様々な活動に実践的に取り組む領域

- ① 身近な社会である学級・学校で、多様な個性や特性、背景を持つ他者との対話や協働により、児童生徒が主体となってルール形成や学校生活の改善、学校行事など様々な活動に参画することにより、「生成AI時代の主権者」として、確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する領域として、特別活動の位置付けを明確化すべき
- ② 児童会・生徒会活動について、教師の適切な指導のもと、校則など学校のルールを設定をはじめとする学校運営に発達段階に応じて子供が関わる仕組みであることを、教育的活動という性質に十分配慮しつつ、明示的に示していくべき
（補足イメージ 取組例①②）
- ③ 学校行事について、各行事の特質や教師の過度な負担を生じさせない観点を踏まえつつ、子供たちが創造する活動である旨をより明確にすべき（取組例①）
- ④ 学級活動について、学級内の多様性を前提に、共生社会の実現に向けた納得解を形成することの重要性をより明確に位置付けてはどうか。このことが社会的障壁の低減や教育課程全体の包摂性の向上に資することが期待される（取組例③）
- ⑤ 以上の改善の実効性を上げるためにも、子供が主体的・実践的に取り組む活動という特別活動の特質を踏まえ、内容の精選を進めるとともに、学習評価の質を向上させるための合理化を検討すべき

2. 取組を促進する方策の充実

<教師の負担への配慮等>

- ① 児童生徒の意見を活かした学校運営やルールの形成等の取組を円滑かつ豊かなものにできるよう、クラウドツールの活用方法を含め、意見表明を過度な負担なく学校の様々な活動や運営に繋げる好事例等について、整理・提供すべき
- ② 児童生徒の参画や意見を活かした学校運営、授業づくりに関する指導上の工夫等について、学校管理職や教師等に対する研修を充実させていくべき

<子供の意見を反映させる受け皿の整備>

- ① 子供が学校生活での気づきや悩みをクラウドで寄せることができる仕組みなど、学校運営の包摂性を高める取組の一環として、教師の過度な負担なく児童生徒の声を聞く取組を促すことを検討すべき
- ② 学校運営協議会制度（コミュニティスクール）において、子供の社会参画を促す方策を検討すべき（取組例⑤）
 - 子供の社会参画や意見表明の推進を議題とする
 - 子供自身が学校運営協議会に参画する
- ③ 学校評価において、学校運営の評価・改善プロセスに子供が関わることについて、子供の社会参画に関わる教育内容と関連づけることを促すことを検討すべき（取組例⑥）
- ④ 教育振興基本計画や教育大綱の策定をはじめとする地方公共団体での議論において、子供の意見表明の機会を設ける等、学校を超えて子供の社会参画を促すことを検討すべき（取組例⑦）

令和8年度

埼玉県地域学校協働活動に関する研修会

プレゼンタイム

私に関わっている地域学校協働活動
の推し活動をシェア!!!

テーマトーク 何が変わったのでしょうか。

学校支援ボランティア



学校支援地域本部



地域学校協働本部

地域学校協働活動が陥りやすい課題



「総合 収穫を祝おう」
もちつきの指導

一日限りのイベントに
なりやすい



全校読み聞かせ

PTAなど既存組織への
丸投げになりやすい



体力テスト補助ボランティア

学校の「お手伝い」
だけになりやすい



田んぼの先生、地域の方と
一緒に稲刈り

支援する地域住民が
固定化しやすい



夏芝のポット苗植え作業

学習というよりも
単純「作業」になりやすい



神社の宮司さんが町の歴史を語る授業の様子

子どもが受身の
学びになりやすい

欠落しがちな地域づくりの視点



体力テスト補助ボランティア



夏芝のポット苗植え作業



田んぼの先生、地域の方と一緒に稲刈り

学校にとって

人手が必要だから、地域の人たちが手伝ってくれたら、教員が助かるな。
専門的な指導を地域の人がやってくれたら、ありがたいな。

子どもにとって

地域の人たちがたくさん来てくれて、助けてくれるから、困らないな。
学校ではできないことができるから、嬉しいし楽しいな。

地域住民や地域にとって

???

法律に規定された地域学校協働活動

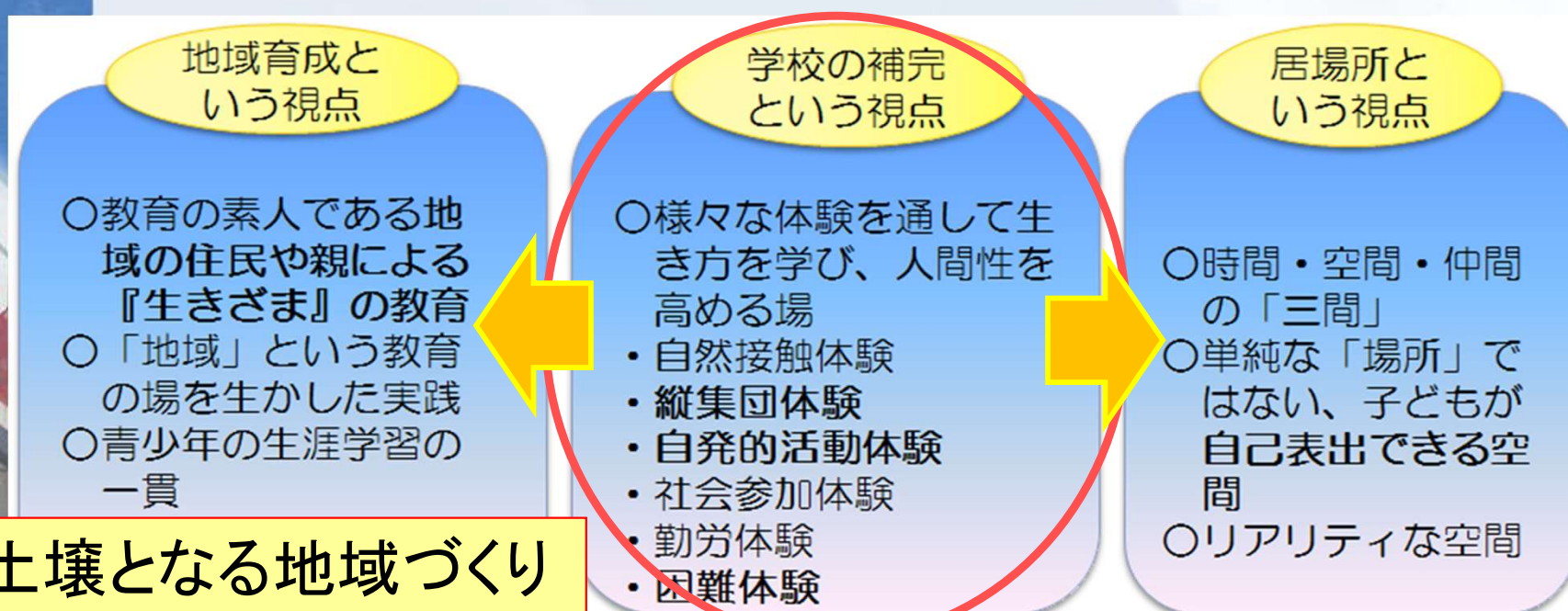
【社会教育法】

第2条

「学校教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動」

第5条の2

放課後・休業日の学習、ボランティア・社会奉仕・自然体験、学習成果を活用して行う教育活動、その他について、地域住民その他の関係者が学校と協働して行うものを**地域学校協働活動**という



社会教育と地域学校協働活動の位置づけ

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

資料3-3

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成



テーマトーク 地域学校協働活動って何？

地域学校協働活動であることの
「条件」を挙げてください。

- ・教育課程内に位置付けられた活動でないとだめでしょうか
- ・学校が関わっていないとだめでしょうか
- ・子どもが支援対象でないとだめでしょうか
- ・他の学区や自治体の地域人材ではだめでしょうか

自由度の高さがポイントの地域学校協働活動

様々な地域学校協働活動

定義

「地域学校協働活動」とは、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして、以下の様々な取組を組み合わせる実施する活動

学びによるまちづくり・ 地域課題解決型学習・郷土学習

- ◆地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方策を考え、実行する学習活動
- ◆「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動
- ◆地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習 など



放課後子供教室

- ◆地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動



地域未来塾

- ◆中学生・高校生等を対象に、教員OBや大学生などの地域住民の協力によって行う学習支援



家庭教育支援活動

- ◆寄り添いが必要な子供、不登校傾向のある子供等への対応について、保護者が学び合う機会づくり など



学校に対する多様な協力活動

- ◆登下校の見守り、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、子供たちへの本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援 など



地域の行事、イベント、お祭り、ボランティア活動等への参画

- ◆地域イベントにおけるボランティア体験学習、伝統行事やお祭りでの伝統文化・芸能の発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画 など



地域学校協働活動とはどんな活動なのか？

幅広い**地域住民等の参画**を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした**地域づくり**」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして**連携・協働**して行う様々な活動 (文部科学省総合教育政策局)

地域の将来を担う
人材の育成

地域住民の
つながりの深化

持続可能な
地域社会の
形成へ

地域の教育力の
向上・充実

地域学校協働活動で目指したものは

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

資料3-3

◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。

◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成

①より多くの多様な人々の
参画と活動が重要!!!

②緩やかなネットワーク
を形成!!!

point!!!



教育諸機能を活性化・統合し、
地域コミュニティを形成することまで意図している

地域学校協働活動によるコミュニティ再生

他自治体とは異なる原発事故被災地の特殊性

町の総面積の約8割が
福島第一原発から半径20km圏内

2011年3月12日

避難指示区域に
指定。町全域に住
む町民の避難開始

2015年9月5日

避難指示が解除され、住民が帰還し始
める。

2017年4月6日

町内で小学校が再開

町民は、2024年12月31日現在で、
6,411人中、4,477人が町内在住



檀葉町人口 8,042名 (2011年6月15日)					
県内	5,414名	67.3%	県外	2,628名	32.7%
いわき市	3,397名	42.2%	茨城県	407名	5.1%
会津若松市	828名	10.3%	東京都	401名	5.0%
会津美里町	363名	4.5%	埼玉県	390名	4.8%



檀葉町人口 7,565名 (2013年9月30日)					
県内	6,470名	85.5%	県外	1,095名	14.5%
いわき市	5,737名	75.8%	茨城県	229名	3.0%
会津美里町	269名	3.6%	東京都	157名	2.1%
郡山市	128名	1.7%	埼玉県	142名	1.9%
会津若松市	107名	1.4%	千葉県	140名	1.9%
福島市	58名	0.8%	神奈川県	86名	1.1%



檀葉町人口 7,215名 (2017年3月31日)					
県内	6,439名	89.2%	県外	776名	10.8%
いわき市	4,606名	63.8%	茨城県	193名	2.7%
檀葉町	1,347名	18.7%	埼玉県	109名	1.5%
会津美里町	138名	1.9%	東京都	108名	1.5%
郡山市	111名	1.5%	千葉県	100名	1.4%
会津若松市	64名	0.9%	神奈川県	58名	0.8%

出典：檀葉町)

地域（行政機能や学校機能も含める）そのものが他自治体へ
→コミュニティが「地域」という地盤そのものを失う

震災後の福島県の状況

図5 岩手県の市町村別転入・転出超過数（平成22年～平成24年）

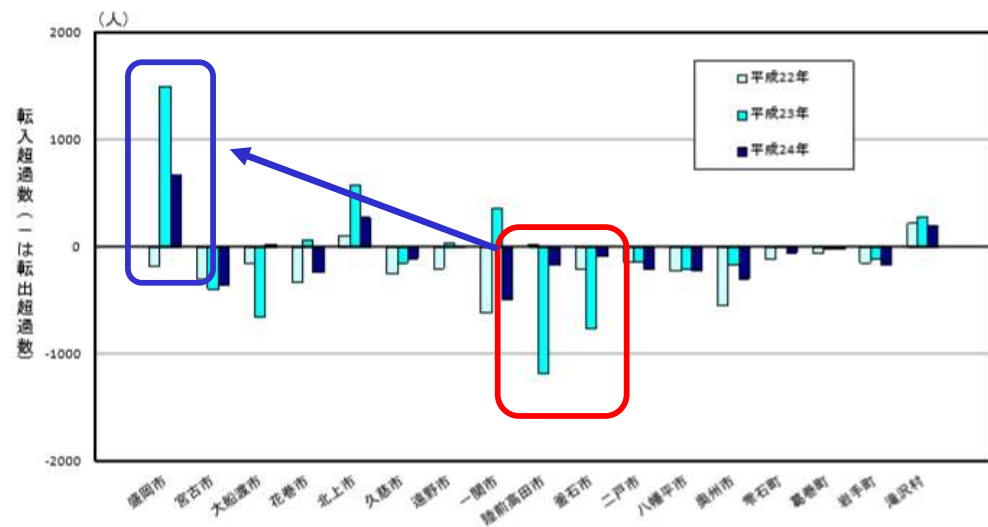


図6 宮城県内の市区町村別転入・転出超過数（平成22年～平成24年）

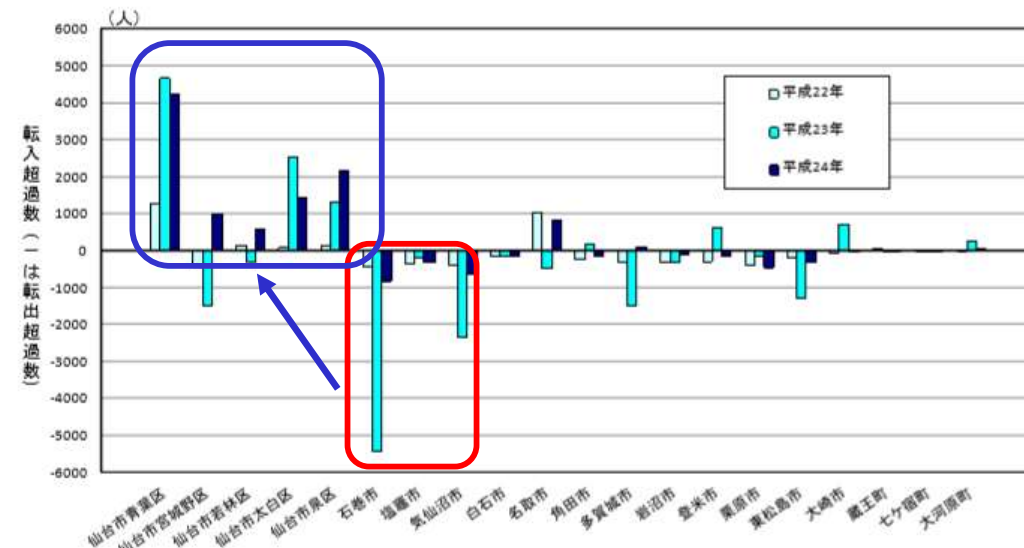
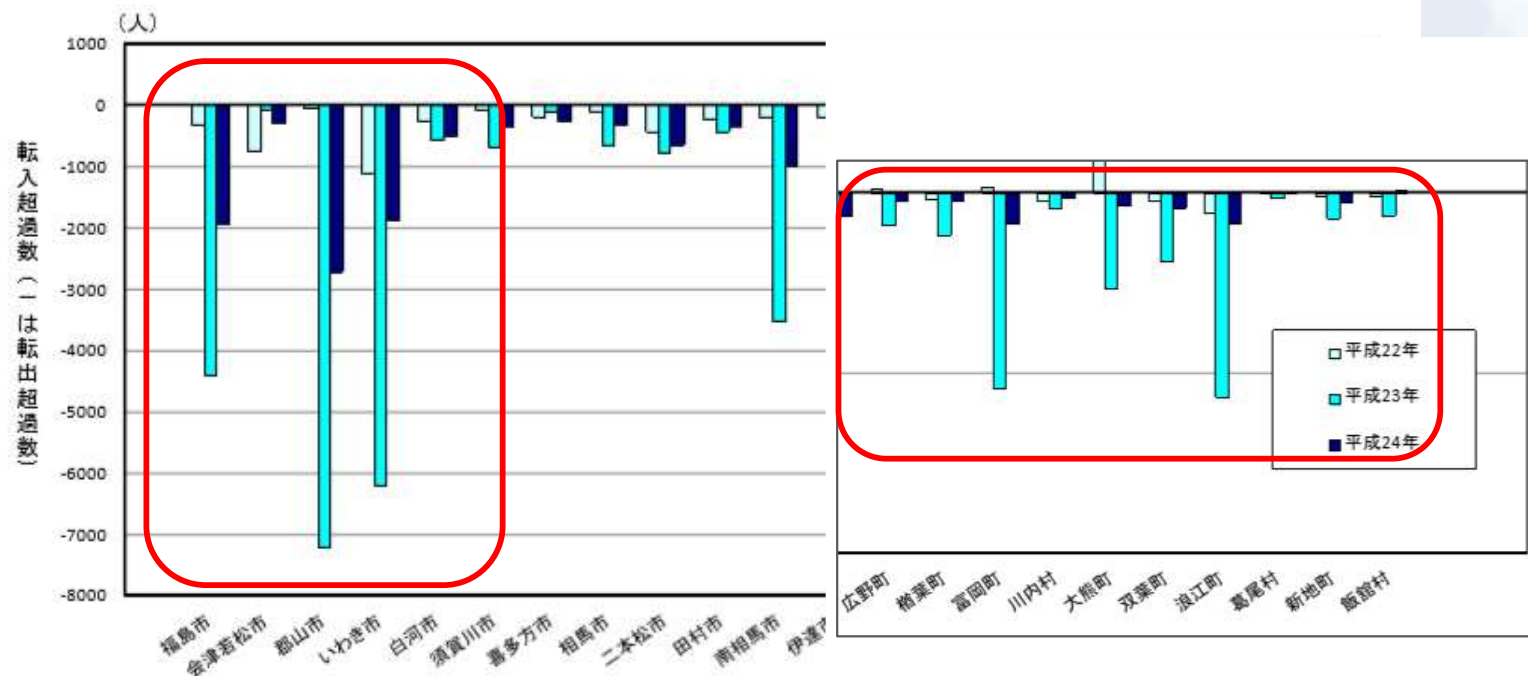


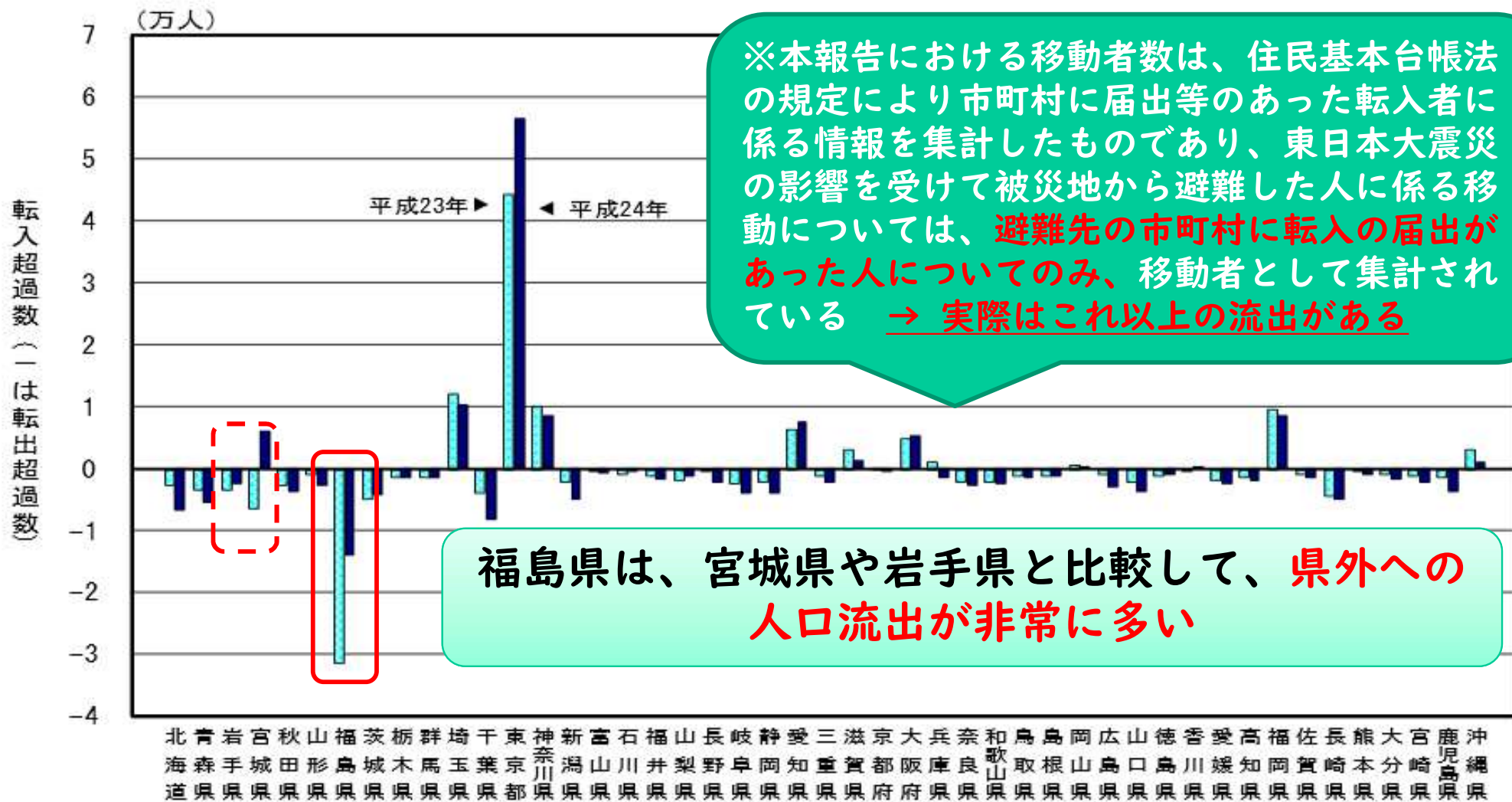
図8 福島県の市町村別転入・転出超過数（平成22年～平成24年）



福島県では、
震災の被害が大きかった地域の
避難先の受け皿
として、県内が
なっていない傾
向にある

震災後の福島県の状況

図2 都道府県別転入・転出超過数（平成23年，平成24年）



地域学校協働センターの設立の背景

全町避難を経験した原発事故被災地特有の課題

- ・町民の避難による**地域コミュニティの衰退・喪失**
- ・地域における**社会教育の機会の少なさ**
- ・学校と地域との**つながりの希薄さ**
- ・近隣に住む友達がいない、**放課後の孤立化**
- ・子どものふるさと櫛葉の意識の欠如

- ・子どもと**地域の大人との関わりの機会が少なさ**
- ・子どもが地域施設や自然環境など、**地域資源との関わりが少なさ**
- ・教員が地域資源を知らず、**教材化が困難**
- ・全家庭バス通学により、**自宅と学校の行き来で子どもの一日が完結**

すなわち、「**地域の教育力の低下**」である。

社会教育分野における地域の教育力の向上

地域教育力低下の原因

高度経済成長期以降

地域の共同性の
衰退と社会規範
の低下

生活の地域性の
希薄化と生活体験
の機会の減少

共同的な集団的活
動を行う組織的な
地域集団の空洞化

地域の教育力とは、**地域の自然・文化・人間関係**
から生起する教育であり、
いわば**地域全体から発する教育**である

地域社会の
規範体系

多面的な
生活体験の場

地域集団の
役割

溝口(1990)、松原(1981)、門脇(2002)ら

地域の教育力の向上のためには、地域集団と結びついた**教育**
諸機能の活性化や統合と、地域の大人と子どもとが交流し、
多様な共同体験の機会を多く設定することが重要

原発事故被災地である檜葉町を目指す 地域学校協働活動による地域コミュニティの再生

ピンチ!

原発事故災害により、地域コミュニティが消滅・衰退

チャンス!

復興にかける地域住民の地域学校協働活動への参加と
学校運営協議会への参画で、地域コミュニティ再生を目指す。

地域コミュニティ再生のための必要要素

人・主体

継続性・持続性

地域の特性・独自性

地域コミュニティ再生に必要な地域の特性

「危機感が地域で共有化できることが源泉となり、それに対して
何かのアクションを起こそうとする人たちの存在が必要である」

多数の多様な地域住民の関わりが重要であり、
その機会として、CSと協働活動という教育を通じた多様な
関わりを重点的に設定した

檜葉町地域学校協働センター(地域学校協働本部) の機能と役割

②学校教育における 授業支援等

- ・教科指導、指導の相談
幼児教育、指導の相談
- ・地域の伝統文化体験などの実施
- ・教材(指導案)開発
- ・放射線教育、環境教育の推進
- ・外部オーダーによる地域材等の教材化
- ・通学路の安全対策(見守りボランティア)
- ・中学校の部活動支援

- ・郡内町村との連携
- ・会津美里町との連携
- ・福島大学との連携
- ・他課との連携活動の窓口と調整

③学校施設を活用した地域連携

- ・スクールランチプロジェクトの展開(給食機能の開放)
- ・地域サロンの運営
- ・地域開放教室の管理
- ・学校開放の窓口業務
- ・プール開放と管理

④地域と学校の 連携協働

- ・学校運営協議会の運営
- ・地域学校協働部会の運営
- ・子ども地域活動部会の運営
- ・地域学校安全部会の運営
- ・地域と学校の合同研修会等の実施

①地域における 社会教育の展開

- ・放課後子供教室の実施
- ・土曜活動の実施
- ・キャリアスクールの実施
- ・ふるさとの魅力発信し隊(子どもたちによる地域活動への参画)
- ・震災関係の教育機会の整備

学校に対する多様な協力活動
学びによるまちづくり・
地域課題解決型学習・郷土学習

放課後子供教室

地域未来塾

地域の行事、イベント、お祭り、
ボランティア活動等への参画

家庭教育支援活動

- ・進学に関する相談
- ・不登校等に対する支援
- ・保護者の支援
- ・幼児教育支援

【社会教育】放課後子供教室・地域未来塾

地域住民等の参画による放課後等の学習支援・体験活動 (放課後子供教室・地域未来塾)



内容

全ての児童生徒を対象に、退職教員や大学生等の地域住民等の協力により実施する原則無料の学習支援・体験活動等

地域学校協働活動※

- 学校の教育活動、授業内容等の共有
- 宿題実施にあたっての指導方法等の共有
- 学校で実施できなかった体験活動や実験等の実施依頼

連携・協働

地域学校協働活動推進員
(地域と学校をつなぐコーディネーター)

連携・協働

学習支援員・協働活動支援員
等
(学習支援等の実施、サポート)

参画

退職教員、大学生、地域住民、
民間教育事業者等の様々な地域人材

地域住民等の参画による 放課後等の学習支援

全ての児童生徒を対象に、放課後や土曜日、夏休み等に、学校の空き教室や図書室、公民館等において、退職教員や大学生等の地域住民等の協力により、学習支援等を実施

地域住民等の協力を得ながら地域における学習支援・体験活動を実施

- 社会的経済的背景によらず、誰もが学ぶことができる環境の実現
- コミュニティ・スクールとの一体的な推進により、学校での教育課程と連動したプログラムの実施や、教育課程内では不足する部分の補習等の実施が可能

学校と地域住民等が連携・協働して活動に関わることで、地域全体で子供たちの成長を支えていくための体制の構築を図る

【地域住民等の参画による放課後等の学習支援・体験活動の例】

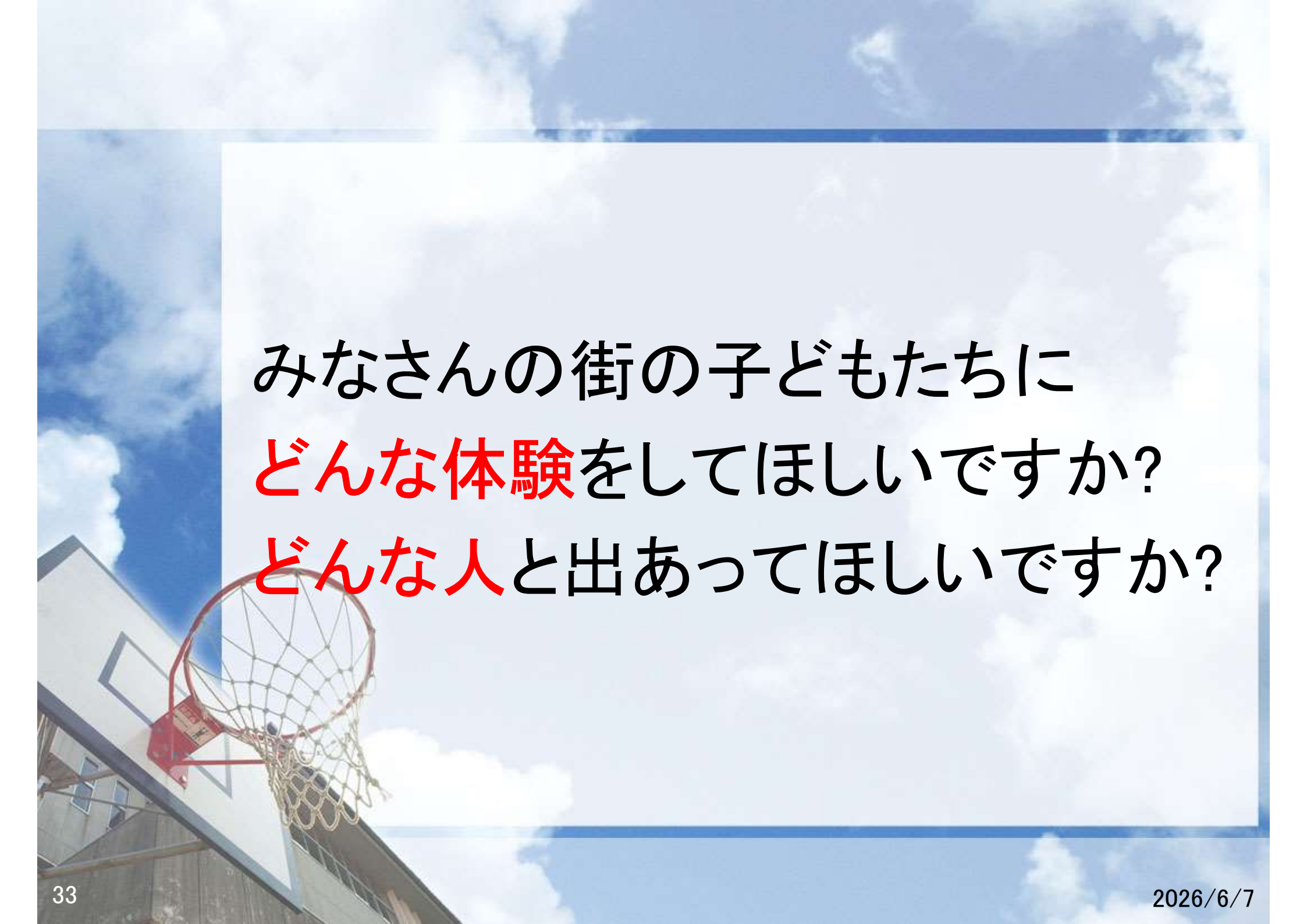
- ・予習・復習、補充学習・ICT(学習アプリ等)を活用した学習
- ・英検・数検等検定試験対策、定期考査前の集中プログラム
- ・大学生等による進路相談
- ・実験・工作教室、英会話、文化・芸術教室、地域探検、農業体験、スポーツ教室など



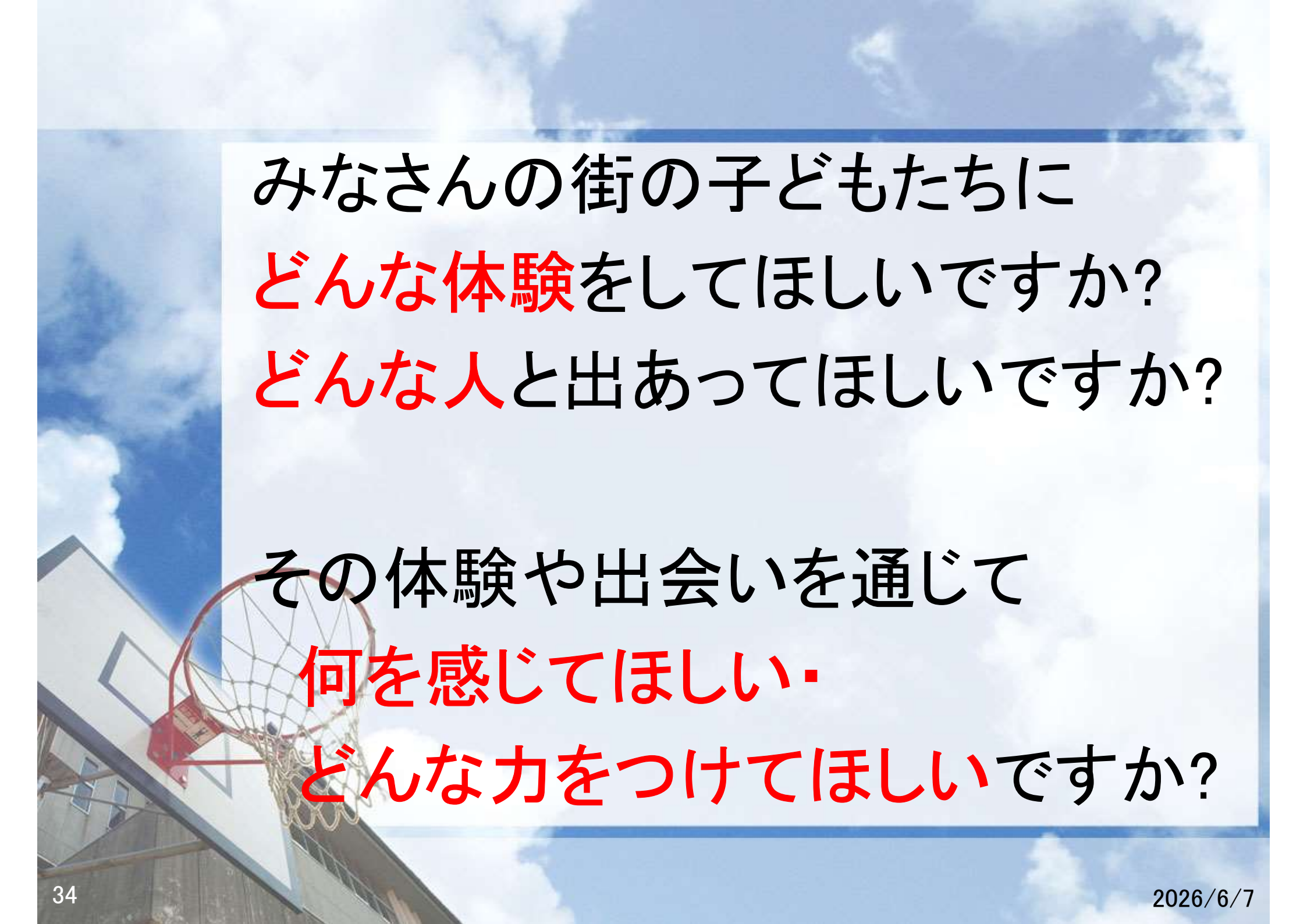
- 実費以外は原則利用者負担なし
- 家庭の経済状況等にかかわらず、全ての児童生徒が参加可能
- 放課後子供教室や地域未来塾等を活用して実施
- 地域の退職教員や大学生、民間教育事業者、NPO等の多様な人材が学習を支援
- 複数校の児童生徒を対象とした教育支援や、外国籍の生徒を対象とするプログラムなど地域の実情に応じて多様な支援が可能
- 地域学校協働活動の一環として、学習支援員や協働活動支援員等への謝金や消耗品費等を補助

※地域学校協働活動

地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で子供たちの成長を支える多様な活動



みなさんの街の子どもたちに
どんな体験をしてほしいですか？
どんな人と出あってほしいですか？



みなさんの街の子どもたちに
どんな体験をしてほしいですか？
どんな人と出あってほしいですか？

その体験や出会いを通じて
何を感じてほしい・
どんな力をつけてほしいですか？

放課後ならはっ子(放課後子供教室)の展開

○ 放課後子供教室について

- ・月曜日から木曜日まで、14時30分から16時30分まで実施。
- ・地域住民や団体を講師として招き、多様な体験活動を展開。
- ・長期休みには、福島大学生らによる学習支援活動も午前中に実施し一日3時間開設。
- ・登録児童数は113名(全校児童132名)で86%。高学年児童も7割程度登録
- ・一日平均60名程度が参加。最大で85名、最小で52名程度。
- ・校庭や体育館だけでなく、特別教室等も使用が可能。
- ・専用ルームが学校内に存在。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		絵手紙教室 ※体育館開放	JAXAパー パー飛行機 作り ※体育館開放			
6	7	8	9	10	11	12
	フラバン 工作 ※体育館開放	ミサンガ作り ※体育館開放	さつまいも 収穫 ※体育館開放	Jヴィレッジ サッカー		
13	14	15	16	17	18	19
お芋掘り・ 収穫感謝祭 ※別途申込	福大生とス ポーツデー	科学実験 ※体育館開放	バドミントン	野球教室		
20	21	22	23	24	25	26
天神岬デ ィキャンプ ※別途申込	昔遊び ※体育館開放	フラワーア レンジメント ※体育館開放		Jヴィレッジ サッカー	ポップコーン 作り ※体育館開放	木戸川深谷 ハイキング ※別途申込
27	28	29	30			
イルミネー ションフロ ジェクト ※別途申込	ミニクッキ ング(団子づく り)	バスケット ボール教室	ぶにぶにシー ル作り			

放課後ならはっ子(放課後子供教室)の展開



調理系



運動スポーツ系



交流系



季節系



実験工作系



音楽系

ネイチャーサタデー(土曜学習)の展開

○ ネイチャーサタデーについて

- ・毎月2度程度、土曜日(連携先の都合によっては日曜日)に実施。
- ・対象は町内のこども園児、小中学生とその保護者。
- ・基本的に活動場所は川や山、森といった自然環境。
- ・地域住民や地域団体が講師として活動。
- ・他課からのオーダーに基づいた活動等も多く、町とのタイアップあり
- ・参加する子どもはおおよそ40名前後、保護者は30名程度。



伝統芸能の継承と地域行事への参加

○ 伝統芸能の継承について

- ・地域のオーダーに基づいて、過疎化により継承が途絶えつつあった地域の伝統芸能をこども教室の活動として実施。
- ・町や地域のイベント等に出向き、子どもたちが実演。

○ 地域行事への参加について

- ・震災後、子ども会の消滅により実施できなかった伝統行事に参加
- ・自治会等と連携し、かつて行政区で実施されていた活動に参加



ふるさとの魅力の発信（子どもの地域参画）

○ ふるさと櫛葉の魅力を発信し隊について

- ・地域団体等からのオーダーを受け、地域の諸活動に参加するのではなく、**主体者・協働者として参画することを目的**とした活動。
- ・企画や準備段階から**複数回連携し、活動を通して交流**も深めている
- ・準備や企画段階は放課後に、当日の活動は土曜日や日曜日等
実施するため、対象は小学生。
- ・**子どもたちのアイディアや意見**が反映されている。



地域と協働して自己実現の機会を設定

○ 探究トライアルについて

- ・子どもたちがやってみたいとおもうことを自由に企画できる活動。
- ・実現にあたって、**関係する地域人材や地域団体と交渉し、参画**してもらう。それにより**企画段階から協働関係が形成**され、子どもの力だけでは実現不可な活動も実現できる道筋がつけられやすい。
- ・アウトプットの機会が地域社会であり、**子どもたちの社会参画意識の向上**にもつながっている。

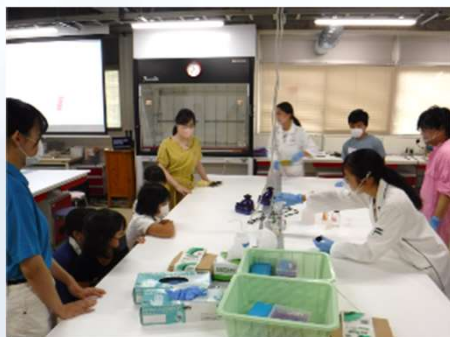
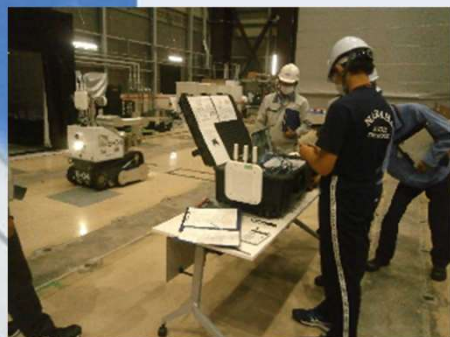


キャリアスクール

(社会教育におけるキャリア教育)の展開

○ キャリアスクールについて

- ・対象を小学校高学年から中学生に設定し、**町内の企業や団体等**との連携をベースとして、カリキュラムに縛られない形での**弾力的な職業体験**を展開。
- ・町内に高等教育機関がないため、福島大学や福島高専との連携協定を締結し、**キャンパスツアーや学祭での活動も実施**。
- ・長期休みに実施し、活動時間も半日から一日。



ロールモデルとしての大学生との交流

○ 福島大学との連携について

- ・町内に高校や大学などがなく、子どもたちと「ナナメの関係」となる人材が少ないことから、福島大学と協定を締結。子どもたちと大学生の間にも「子ども協定」も締結することで、自分事感を高めている
- ・月に数度、来町してもらい交流を進めており、長期休み等には、学習支援活動も実施している。
- ・協働の居場所空間も作り、大学生も活動できるよう配慮。



他自治体との連携による活動

○ 会津美里町との連携について

- ・避難先として交流のあった会津美里町と長期休みに相互の町での合同の宿泊体験を通じた交流を実施。震災時の交流体験や伝承施設などで共に学び合う。
- ・中学生にも参画してもらい震災時の交流について、道徳教材として作成中。
- ・岩手県陸前高田市や鎌倉市と震災に関する合同体験活動も展開。



社会教育たる地域学校協働活動の 強みとポテンシャルの高さ

- ① 展開できる**時間**が幅広いこと
- ② 地域の**様々な場所**で展開ができること
- ③ **子縁**は地域の協力が得やすいテーマであること
- ④ **自由度**の高い活動が展開可能なこと
- ⑤ 地域住民の**自己実現**の機会や**生きがい**につながりやすいこと
- ⑤ 地域の**ニーズ**に合った活動が可能なこと

テーマトーク 地域の課題って何でしょうか？

皆さんの地域の「課題」は何でしょうか。

- ・地域コミュニティ全体の課題
- ・地域団体の課題
- ・地域住民
（高齢者・若者・外国人・移住者）の課題
- ・保護者や家庭の課題
- ・子どもの課題
- ・地域と学校に関する課題
など

地域学校協働活動の「地域政策」としての捉え

地域ロジックモデルは 問題点の裏返し

檜葉がこんな地域ならいいな!!!

地域住民間の円滑な
コミュニケーション

地域団体・企業
の活性化

地域活動や行事、
イベントの活性化

子どもと大
人の知り合
いの増加

大人同士の
知り合いの
増加

地域団体の
加入者数の
増加

地域団体・
企業の活動
の機会の増
加

地域活動や
行事、イベン
トの再開・増
加

参加する
子どもや大
人の増加

挨拶もできな
い子ども

育児で孤立
する若い保
護者や一人
親世帯

試合が組めな
い団体スポーツ

マンネリ化で停滞
する老人クラブ

継承者が
なく、消滅
の危機の
地域神事
や行事

盛り上がり
に欠ける地
域イベント

近所に友だ
ちが住んでい
ない子ども

伝承者のいな
い伝統芸能

利用者の固定化
で悩む施設・企業

地域学校協働活動の「地域政策」としての捉え

檜葉がこんな地域ならいいな!!!

地域住民間の円滑な
コミュニケーション

地域団体・企業
の活性化

地域活動や行事、
イベントの活性化

子どもと大
人の知り合
いの増加

大人同士の
知り合いの
増加

地域団体の
加入者数の
増加

地域団体・
企業の活動
の機会の増
加

地域活動や
行事、イベン
トの再開・増
加

参加する
子どもや大
人の増加

・放課後子
供教室での
多様な地域
住民の活動
・親子交流
企画の展開

・子育て講演会
の実施
・親子参加型の
多様な体験プ
ログラムの実施
・活動のネット
ワーク化

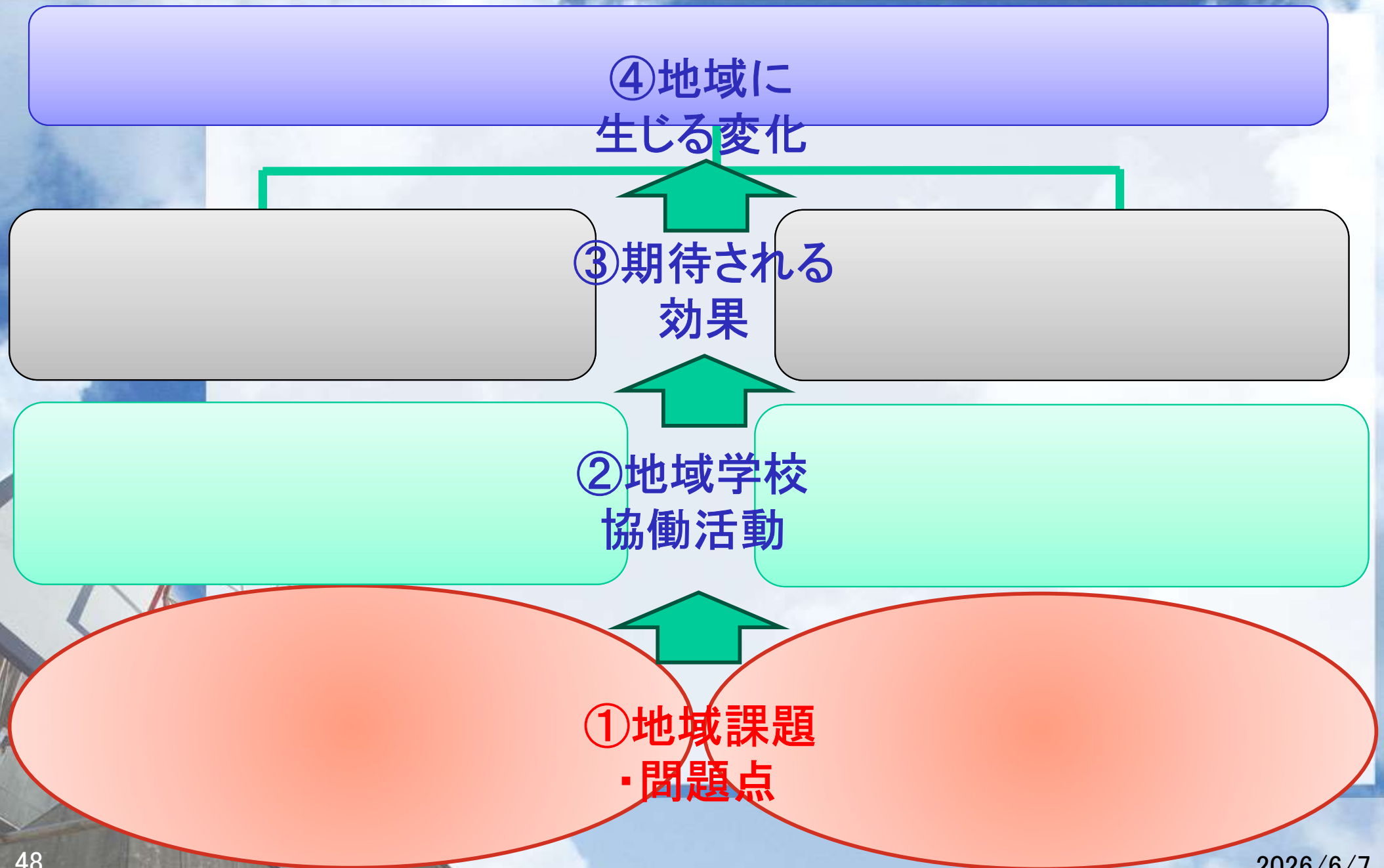
・既存の地
域団体との
連携
・地域団体
の学校教育
での活動

・地域企業との連
携によるキャリア
教育の推進
・生涯学習の学
びの成果として
の子供教室の活
用

・イベントの
共催や参画
・学校行事
とのタイアッ
プ
・地域活動
への参加

・案内や窓
口としての
活動
・学校や子
供教室とし
ての参加

地域学校協働アクションプランを立ててみましょう④



求められるのは、

「地域政策としての地域学校協働活動」という認識

教育的アプローチを重視

- ・大豆(植物)を加工して、味噌(製品)ができることを理解
- ・昔の人の暮らしを追体験
- ・食事への関心を高める
- ・食べられる味噌を完成させる



味噌づくり体験

地域政策的アプローチを重視

- ・たくさんの地域住民と活動を通して交流し、体験を共有
- ・味噌づくりを話題にして、地域住民と交流
- ・家庭に持ち帰り、味噌ができる家庭を保護者と共有

「味噌づくり」はあくまで、**地域との交流の「手段・方法」**。したがって、プロが教える必要も、おいしい味噌ができる必要性もない。重要なのは、**多くの地域住民との交流が生まれ、交流が深まる工夫**をすること。



「子どもたちと活動を共にする地域の人々との関わりを
多様な関り方で数多く設定することが大切!!!」

地域づくりのために 学校教員に求められること

地域へのアウトプット を意識した単元構想

支援

- ・ 地域住民が何をするか
- ・ 地域でどんな活動をするか

協働

- ・ 地域に対してどんなアクションを起こすか
- ・ 地域のために何ができるか

地域課題と住民の想いを把握し
単元の終末に明確に位置付けた
単元構想が重要

地域の想いと子どもの 学びのコーディネート

教える

- ・ 子どもに何を教えるか
- ・ 子どもにどう教えるか

学ぶ

- ・ 子どもが何を学び取っていくのか
- ・ 子どもがどう学んでいくか

学びの進捗に合わせて、地域課題の解決に迫る手だてを的確に
コーディネートする力が重要

子どもたちは、地域の将来の担い手であり、**学校は地域住民の活動の場、そして地域コミュニティの拠点でもある**

地域づくりのために 地域学校協働推進員に求められること

活動に対する地域住民
の想いの把握と実現

従来の人材バンク

- ・ どんなことをしてきた
(経歴や実績)
- ・ どんなことが教えられる
(技術・経験)



- ・ どんなことを伝えたい
- ・ 何のために活動をしたい
(**想い・ニーズ**)

子どもへの多様な関わり
方の提示と価値共有

従来の関わり方

- ・ 「教える」「伝える」
【タテ】



- ・ 「手伝う」
- ・ 「支援する」 **【ナナメ】**
- ・ 「共に活動する」
- ・ 「共に学び合う」 **【ヨコ】**

地域は、未来の地域づくり担い手である子どもが実生活
・ 実社会について**体験的・探究的に学習できる**場であり
多様性が何よりも重要

コミュニティ・スクールが求められる背景

地域における教育力の低下

- 感染症の拡大や国際情勢の不安定化などに象徴される**将来の予測が困難な時代の到来**
- 少子化・人口減少や高齢化、DXの進展などの**社会の変化**
- 都市化や過疎化による**地域のつながりの希薄化**

学校を取り巻く問題の複雑化・困難化

- 子供たちが抱える**困難の多様化・複雑化**
- 学校における**働き方改革**のさらなる推進
- **情報化**の加速度的な進展に関する対応

学習指導要領の理念「社会に開かれた教育課程」

- ① 教育課程を介して**目標を学校と社会が共有**
- ② 子供たちの育成すべき資質・能力を明確化
- ③ **地域の人的・物的資源の活用、社会と共有・連携しながら、開かれた学校教育を展開**

地域 学校



- ◆ **コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）**
 - ◆ **地域学校協働活動、地域学校協働本部**
- 地域と学校の連携・協働体制を一体的に推進**



【参考】教育基本法 第13条

学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

みなさんはどう思いますか？

高崎市は4月、市立全58小学校の開門時間を午前7時に早める。各学校が現在より50～30分早くなる。朝早く家を出なければならない共働き家庭やひとり親家庭を支援するために、約130人の児童が利用を希望しているとのこと。

保育所では午前7時から子供を預けられるが、小学校では8時近くにならないと開門しない「小1の壁」が全国で問題とされている。市教委によると、小学校の開門・開扉時間は学校で異なり、現在は午前7時半～50分。保護者からは「開門を早めてほしい」との要望が寄せられていた。

そこで、開門などを担当する用務員に早めに出勤してもらい、午前7時に学校に入れるようにする。児童は教室や図書室など学校が決めた場所で始業時間まで過ごす。事前申し込み制にするかなどは、学校の裁量に任せるという。市側は「見守り事業ではなく開門事業である」「門を開けるだけだから子どもたちを見守る必要はない」というスタンス。

高崎市長は「社会全体で子育てをしている働く女性たちを出来る限り支援していくというのは社会的な命題。これは学校施設も無縁ではない」と語り、教職員の出勤を強要していないことを強調する。

みなさんならどんなアイデアがありますか？

子どもを家に残して、
仕事に行かなければ
ならない保護者の心配と不安

働き方改革が求められ、
勤務時間が問題視されて
いる学校教員の実態

子ども
の思い

夫婦共働き家庭や
ひとり親世帯が増加しながらも
フレキシブルな働き方が定着していない日本社会

地域と学校の連携・協働体制構築事業

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～

令和8年度予算額

7,052百万円

(前年度予算額)

7,052百万円)



現状・課題

- 予測困難なこれからの社会においては、**学校・家庭・地域が連携・協働し、社会全体で学校や子供たちの成長を支えることが重要。**
- **コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進**することで、**学校・家庭・地域が連携・協働して、自立的・継続的に子供を取り巻く課題を解決できる地域社会の実現**を目指す。
- コミュニティ・スクールの導入率上昇を受け、**コミュニティ・スクールの活動の質向上、地域学校協働活動を通じた課題解決の推進**等に向け、**地域学校協働活動推進員の配置促進、教育委員会の伴走支援体制の強化**を図る。
※コミュニティ・スクール導入率：R7.5時点:22,009校、64.9%

関連文書等

- ・経済財政運営と改革の基本方針2025 (R7.6.13閣議決定)
- ・地方創生2.0基本構想 (R7.6.13閣議決定)
- ・新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 (R7.6.13閣議決定)
- ・放課後児童対策パッケージ

事業内容

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進する自治体の取組に対する財政支援

(事業実施期間：平成27年度～)

交付先	都道府県・政令市・中核市 (以下「都道府県等」)
要件	①コミュニティ・スクールの導入又は導入計画があること ②地域学校協働活動推進員等を配置していること等
補助率	国1/3、都道府県等1/3、市区町村1/3 ※都道府県等が直接実施する場合、都道府県等2/3
支援内容	地域学校協働活動推進員や地域ボランティア等に係る諸謝金、活動に必要な消耗品等



▶ コーディネート機能の強化

- 地域学校協働活動推進員等の配置を促進
学校における働き方改革、郷土教育や地域産業を担う人材育成などの地域課題に応じた追加配置や常駐的な活動等を支援

▶ 教育委員会の伴走支援体制の強化

- CSアドバイザーの配置促進
- 学校運営協議会委員、推進員等、地域ボランティア等に対する研修の充実

▶ 地域学校協働活動の実施

- 学校における働き方改革に資する取組、放課後等における学習支援（地域未来塾等）や体験・交流活動等を支援
- 郷土学習に係る活動等を支援
- 共働き世帯の増加に伴う学校始業前(朝)における活動等を支援

ロジックモデル

アウトプット（活動目標）

すべての自治体で地域学校協働活動等の学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動を実施

【参考】予算補助を受ける自治体
R5:1,366自治体 R6:1,374自治体 R7:1,376自治体

地域学校協働活動推進員等の数の増加

【参考】予算補助を受ける自治体が配置している地域学校協働活動推進員等の人数
R5:31,125人 R6:32,675人 R7:33,172人

コミュニティ・スクールの導入や質の向上等に関する研修会やアドバイザーの派遣を実施する自治体（都道府県・政令市）の増加

短期アウトカム（成果目標）

子供を取り巻く課題（学校運営上の課題）を改善・解決した自治体の増加

子供を取り巻く課題（地域の課題）を改善・解決した自治体の増加

子供を取り巻く課題（家庭の課題）を改善・解決した自治体の増加

中期アウトカム（成果目標）

学校・家庭・地域の連携が進み、全ての公立学校において、様々な課題に対して協働して取り組む体制の整備

【参考①】地域学校協働本部がカバーしている公立学校の増加 R7:22,693校
【参考②】コミュニティ・スクールを導入している公立学校の増加 R7:22,009校
【参考③】地域学校協働活動等に参画する地域住民の増加 R6:910万人

長期アウトカム（成果目標）

地域と連携した教育活動の充実により、地域に愛着を持った児童生徒を育成

【参考】「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と感じている児童生徒の割合 R6:83.5%

(担当：総合教育政策局地域学習推進課)

小学校の始業前に、学童施設などを利用して、子どもたちが安全・安心に過ごすことができる居場所を設け、心豊かで健やかに育まれる環境をつくる

実施概要

実施場所：学童保育施設

実施期間：1学期開始日から3学期終了日まで（登校日）

実施時間：午前7時15分から登校開始時間まで

活動内容：自主学習、交流活動、など

参加対象：町立小学校に在学中の児童

利用料等：利用料は無料。ただし、登録保険料として児童1人300円を徴収



大切なのは、地域ごとの諸課題を解決しようとする視点

コミュニティ・スクールは、学校と地域をとりまく課題解決のための仕組み（プラットフォーム）

学校や子供たち、地域が抱える様々な課題を学校だけに任せるのではなく、**地域全体で解決を図る**必要性

→ 学校と地域が目標や課題を共有し、協議する**仕組み** = **コミュニティ・スクール**

→ 保護者や地域住民等が**当事者意識**を持って参画することで、様々な取組が活性化

学校の課題



「社会に開かれた教育課程」の実現

教育の目標などを学校と地域が真に共有し、連携・協働することに課題

学校における働き方改革

学校業務の精選や教師の意識改革などに課題



子供の課題



不登校対策

不登校やいじめなど、学校内外において子供が抱える問題への対応に課題



地域の課題



若者の地元定着

子供たちが地域と関わる機会、ふるさとを知り学ぶ機会の減少などの課題

地域防災

災害時に避難所となる学校と地域の連携体制・物資等の整備に課題



コミュニティ・スクール（学校運営協議会）により、地域全体で解決に向けて取り組む

（例）茨城県牛久市

学校運営協議会委員が授業研究に参画。学校理解を深め、熟議を行うことで、社会に開かれた教育課程を実現。教師の授業力向上、子供の学力向上にも寄与

（例）埼玉県戸田市

地域住民や保護者の理解・協力を得ながら学校における働き方改革を一層推進するため、教育委員会による指導・支援のもと、学校運営協議会で学校における働き方改革に関する熟議を推進

（例）北海道登別市

学校運営協議会の組織を生かし、多様な関係主体との円滑な情報共有や連携・協働により、チームとしての不登校対策体制を構築

（例）鳥取県南部町

地域の協力のもと地元の自然や歴史・文化を学ぶカリキュラムを設定し、子供たちのふるさとへの愛着や社会参画力を育成

（例）熊本県

自治体の防災担当職員等が学校運営協議会に参画し、地域住民との合同防災訓練など、防災に関する事項・取組を協議・実践

コミュニティ・スクールで目指したものは？

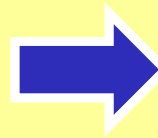
学校運営協議会を設置する公立学校



コミュニティ・スクール (地域運営学校)

各学校の運営に保護者や地域住民が参画することを通じて、

学校の教育方針の決定
や教育活動の実践に、



多くの学校で懸念され、コミュスクが
進展しない要因となっている部分

point!!!

地域のニーズを 適確かつ機動的に反映させる

とともに、

地域ならではの相違や工夫を活かした
特色ある学校づくりが進むことが期待される。

コミュニティ・スクールで目指したものは？

各学校の運営に保護者や地域住民が参画することを通じて、学校の教育方針の決定や教育活動の実践に、**地域のニーズを適確かつ機動的に反映させる**とともに、地域ならではの相違や工夫を活かした特色ある学校づくりが進むことが期待される。

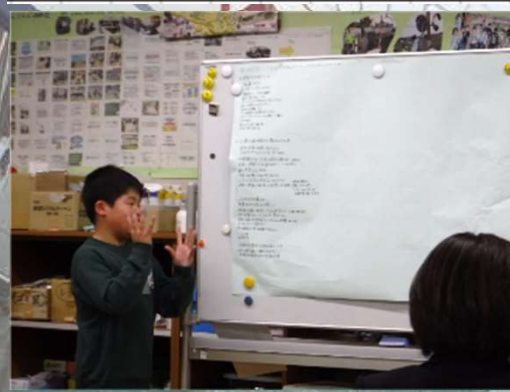
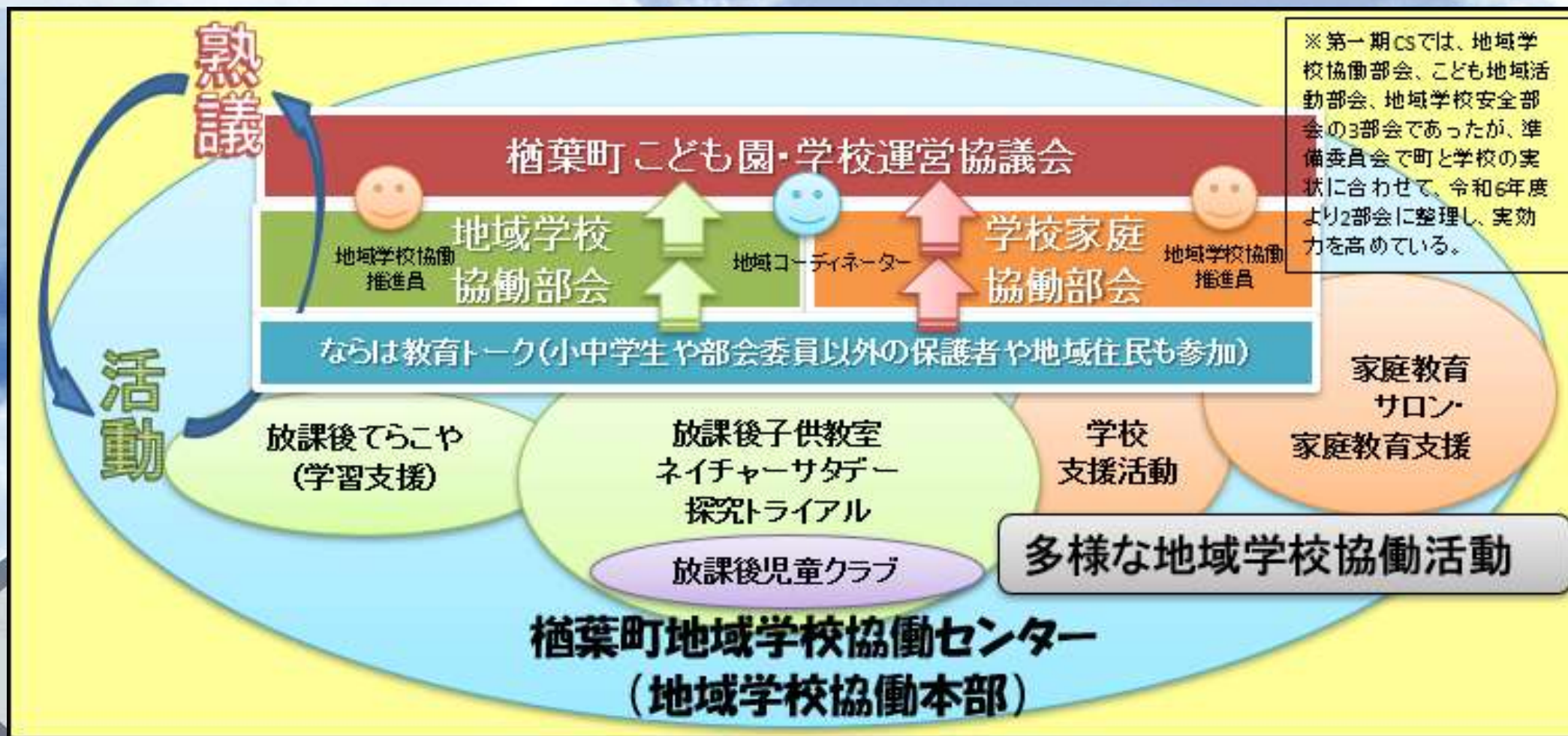
そもそも、なぜ、**地域のニーズを適確かつ機動的に反映させることが求められるのか？**



地域運営学校(コミュニティ・スクール)を継続的に続け、地域主体の学校をつくり、地域づくりや地域活性化にもつなげるため

単なる地域連携の仕組みにとどまらず、多様なステイク・ホルダーが**学校の意思決定にも一定の関わりをもつことを保障する仕組み・制度**であることがポイント。

檜葉町学校運営協議会の概要



子ども地域活動部会の活動



① 幼児の体験の充実

習い事や体験活動をする機会が少ない

地域に幼児の体験活動を実施している民間の習い事などがほとんどない（保護者）

幅広い年代に地域の良さをもっと知ってほしい（地域）

→ こども教室の対象を広げることで、こども園児を対象とした親子参加型体験活動や自然体験を実施する。

② 衰退した地域行事や伝統の継承

全町避難や過疎化により、伝統行事や芸能が大きく衰退した

もっと地域の行事や伝統を学校教育で教えてほしい（地域）

貴重な機会だが、学校のカリキュラムではなかなか実施することが出来ない（学校）

土曜日や日曜日ならば、行政区以外にも協力できる家庭がある（学校）

→ 参加できる年齢や行政区を拡大させることで、町全域での子どもを参加対象として、こども教室で実施する。

地域学校協働部会の活動



① 「日本一の教育」のビジョンの共有

大半の町民にとってスローガンと化している「日本一の教育」

町が進める「日本一の教育」が伝わってこない（保護者）

町政懇談会などに出席する町民が少なく、伝わらない（行政）

町や学校が地域に求める関わり方を示してほしい（地域）

→ 全家庭に対して、運営協議委員が作成したパンフレットを配布するとともに、教育シンポジウムを開催する。

② 中学校 部活動の弾力的な捉え

少人数校のため、チームスポーツを部活動にしづらい

中学進学にあたって、子どもがやりたい部活動がない（保護者）

指導者となる教員も確保できず、部活動を作れない（学校）

スポーツ少年団を拡大することで受け皿の一つとしてできる（地域）

→ スポーツ少年団の活動時間を調整した中学生対象のパートを作り、中学校では部活動への入部を強制しない。

地域学校協働部会の活動



③ 小学校進学時の困り感の解消

特別な支援を要する子どもが非常に多い

特別支援学級や取り出し授業を見据えて教員配置してほしい(学校)

こども園在園時から、進学をサポートしてほしい(保護者)

進学後の学校教職員の負担感を軽減させたい (行政)

→ こども園でのスクールカウンセラーの巡回や小学校見学ツアーを実施、特別支援の説明会もこども園で行うことで、進学前から特別支援体制を構築する。

④ 人間関係の広がり

単級で一園・一校であるため、子どもの人間関係が固定化しがち

もっと多様な人々と子どもたちが関わる機会が欲しい(保護者)

授業中は関われないが、放課後なら交流できる大人がいる (地域)

→ 子供教室での異年齢交流や異世代交流を多く実施する。

地域学校安全部会における議論の成果



① 通学方法の審議と安全対策

原発事故被災地特有の町内全域におけるバス通学

◀ 今までバス通学だったのに、なぜやめるのか(保護者)

運動不足解消のために徒歩通学を開始したい(学校)

日常的に地域で子どもの姿が見られるとよい(地域)

→ 地域による見守りとセットとし、当面はバスも乗車できる。
段階的に徒歩通学に切り替えていく。

② 地域と学校等が連携協働した防災訓練・授業

広範囲な学区域により、地域に根差した防災学習が困難

◀ 限られた教員の数では、十分にカバーできない(学校)

地元の子どもたちとつながるきっかけがほしい(地域)

一人親なども多く、地域でできると心強い(保護者)

→ 役場が主となって進めることで、活動・授業の仕組みを
作ったのち、学校に移行させる。

各地で聞かれる地域共通の課題

若者の流出

人口減少

地域外への
進学・就職

買い物難民
の増加

地場産業の
衰退

学習機会の
限定

学校の統廃合

地域活動・
交流機会の減少

郷土愛の低下

空き家・耕作
放棄地の増加

医療・介護環境
の悪化

里山の環境の
悪化

地域内消費の
減少

チャッピーに聞いたら…

地方で若者の流出を止めるには、「若者に残れと言う」のではなく、**残りたい・戻りたいと思える環境をつくる**ことが重要です。若者が地方を離れる理由は主に「仕事」「教育」「人間関係や価値観」「娯楽や利便性」の4つに集約できます。

1. **魅力的な仕事を増やす** 最も大きな要因は雇用です。給与水準の改善地元企業のデジタル化・高付加価値化リモートワーク環境の整備スタートアップや起業支援地元大学と企業の連携強化単純な雇用数だけでなく、「**成長できる仕事」「専門性を活かせる仕事**」が必要です。

2. 高等教育の選択肢を広げる 大学進学を機に都市へ移り、そのまま定着するケースが多くあります。地方大学の特色強化オンライン教育の活用地元企業とのインターンシップ奨学金とUターン就職支援進学後に**地元へ戻るルートを作ることも重要**です。

3. **若者が参加できる地域づくり** 若者は「決められた地域活動」に参加したいのではなく、自分たちで地域を変えたいと考えることが多いです。若者向けの政策提案制度地域プロジェクトへの予算配分コワーキングスペースの整備世代間交流の促進「若者の意見を聞く」だけでなく、**実際に権限を与えることが**大切です。

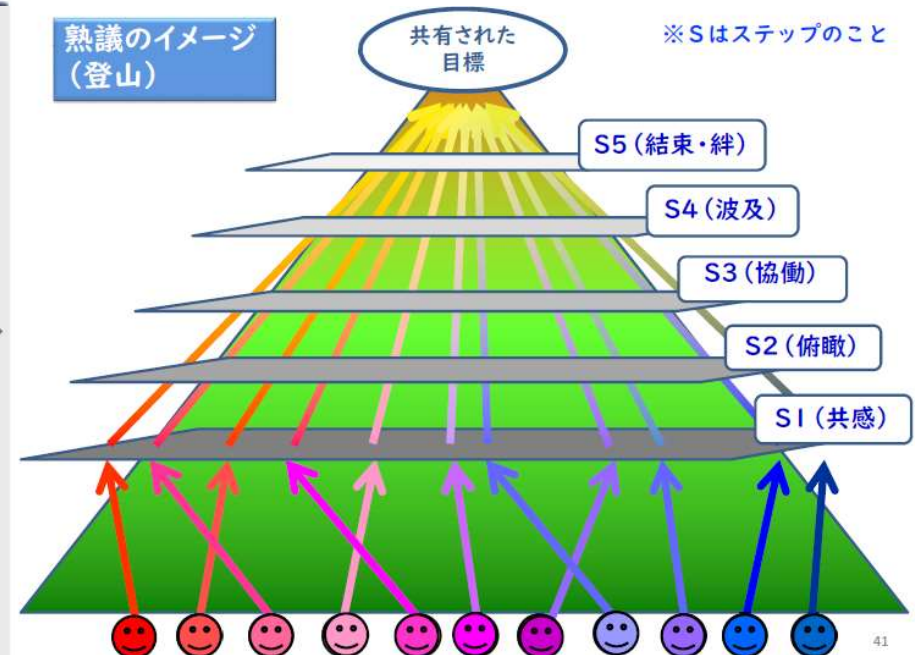
4. 子育て・生活環境を充実させる 将来を考える世代には**生活環境も重要**です。保育園や学童保育の充実医療体制の確保公共交通の維持住宅支援地方は住居費が安いという強みを活かします。

5. 「地方らしさ」を強みにする 都市と同じものを目指しても勝負は難しいです。豊かな自然地域文化食の魅力ゆとりある生活これらを活かして「**都市では得られない価値**」を提供する方が効果的です。

6. Uターン・Iターンを促進する 流出を完全に止める必要はありません。むしろ、**若いうちは都市で学ぶ経験を積む地方へ戻るという循環を作る方が現実的**です。結論若者流出対策の核心は、単なる人口維持ではなく、「**地方でも挑戦できる」「成長できる」「豊かに暮らせる**」と感じられる環境づくりです。特に重要なのは、イベントや補助金よりも、魅力的な仕事と教育機会を増やすことだと考えられます。これが実現できれば、若者は「仕方なく出ていく」のではなく、「自分で選んで残る・戻る」ようになります 2026/6/7

だからこそ、学校運営協議会や「熟議」で 大切なのはチームビルド!

- Step5 成果を共有するため(結束、絆)
- Step4 地域(活動)への橋渡し(波及)
- Step3 課題の解決に向けて動く(協働)
- Step2 課題を発見する(俯瞰)
- Step1 目標(意識)を共有する(共感)



CSと協働活動の一体的な推進とは？



学校に通う子どもたちは、将来、**地域づくりの担い手**となる地域人材となる。しかし、教員(学校)の主目的は、目の前の 現在の子どもの教育(学校づくり)。本来は**もっと俯瞰的に育ちを捉えること(地域視点)**が大切であり、そうした意味で、教員だけでなく、**地域の多様な人々が参画する仕組み(CS)と具体的な機会(協働活動)**が大切。

CSの協議からスタートした事例1： 地域学校防災授業の実施（行事）

全小中学生が集まり、地域住民や消防団と地域防災について学ぶ



子どもの居住地の把握が進展するだけでなく、**担当職員が地域住民や消防団らとつながる**きっかけにもなる。

CSの協議からスタートした事例2： 震災遺構の教材化（総合的な学習の時間）

町内の震災遺構を教職員に紹介するとともに、資料を作成する



《深める》

楢葉の震災遺構① 波倉龍蔵寺(波倉地区)

龍蔵寺は、真言宗のお寺です。楢葉町には開祖 弘法大師が岩を削って作ったといわれている仏像があります。龍蔵寺のまわりにも、お坊さんたちのきびしい修行の跡が残っています。

大震災では波倉地区には高さ10mをこえる大津波が押し寄せて、8人の方が亡くなり、25軒の家が流されました。楢葉町の中でもとくに大きな被害を受けた場所です。その恐ろしさを忘れないため、地元の人たちが力を合わせて、石碑を建て、真っ赤な文字で、大切な言葉を刻みました。

【① 調べて、考えてみよう。】

お寺の門柱をよく見てみましょう。震災のすさまじさを見つけることができます。

津波により、一瞬ですべてが流され、周りには何もなくなってしまいました。ふるさとのこんな景色は今までに見たことがなく、がくぜんとなりました。そして、改めて自然の力に驚きました。今、思うことは、この地区で起きた大きな災害を後世に伝えること、災害に対する準備が必要であるということです。

渡邊正純さん



【② 比べて、考えてみよう。】

道路から波倉龍蔵寺までの道は震災後、どのように変化しているだろうか。なぜ変わったのだろうか。



【③ イメージしてみよう。】

波倉龍蔵寺からはどんなものが見えるだろうか。震災当時をイメージしてみよう。



波倉地区が「津波に襲われている」と聞いて駆けつけましたが、私たちが着いた時にはもう、消防車は津波にのまれて横倒しになっていました。次々に津波が襲ってくるため、近づくこともできず、夜になってしまいました。亡くなった消防団員は波倉地区の人です。地元を大切に思うからこそ、危険な場所に飛び込んでいったのでしょう。大切な仲間を奪われ、これほど残念な思いをしたことはありません。自然の恐ろしさ、消防団員として活動することの厳しさと大切さを感じながら、私たちは活動を続けています。



楢葉町消防団
小栗金重さん

教員が震災学習を自分の町で行えるようになったことで、
総合的な学習の指導などにつながるなど発展性が高まる

CSの協議からスタートした事例3: 放課後における探究活動の実施(総合的な学習)

学校の学習でできなかった活動を放課後に実施する



教科学習や総合的な学習で取り上げられなかった**子どもの疑問や気づき**を実証・学習する場として放課後子供教室が機能

地域団体Sさんの参画と広がり

・想いときっかけ

せっかく檜葉にあるんだから、施設の良さを子どもたちに知ってほしいなあ・・・

・協働活動やCSへの関わり方

- ① **総合の授業**で、道の駅との協働授業の際、外部講師として指導
- ② **放課後子供教室(土曜)の自然体験や宿泊体験**の活動拠点として協働
- ③ **放課後の探究活動**のゆず商品開発で協働
- ④ イルミネーションなど、**町内イベント拠点**として協働
- ⑤ **小中学生のキャリア教育の拠点**として協働

地域団体Sさんの参画と広がり



子ども・学校にとって
校外学習の充実

地域企業にとって
利用者の増加
イベント等の活性化

地域にとって
地域施設の活性化と地域の特産品等の発信力の増加

保護者Yさんの参画と広がり

・想いときっかけ

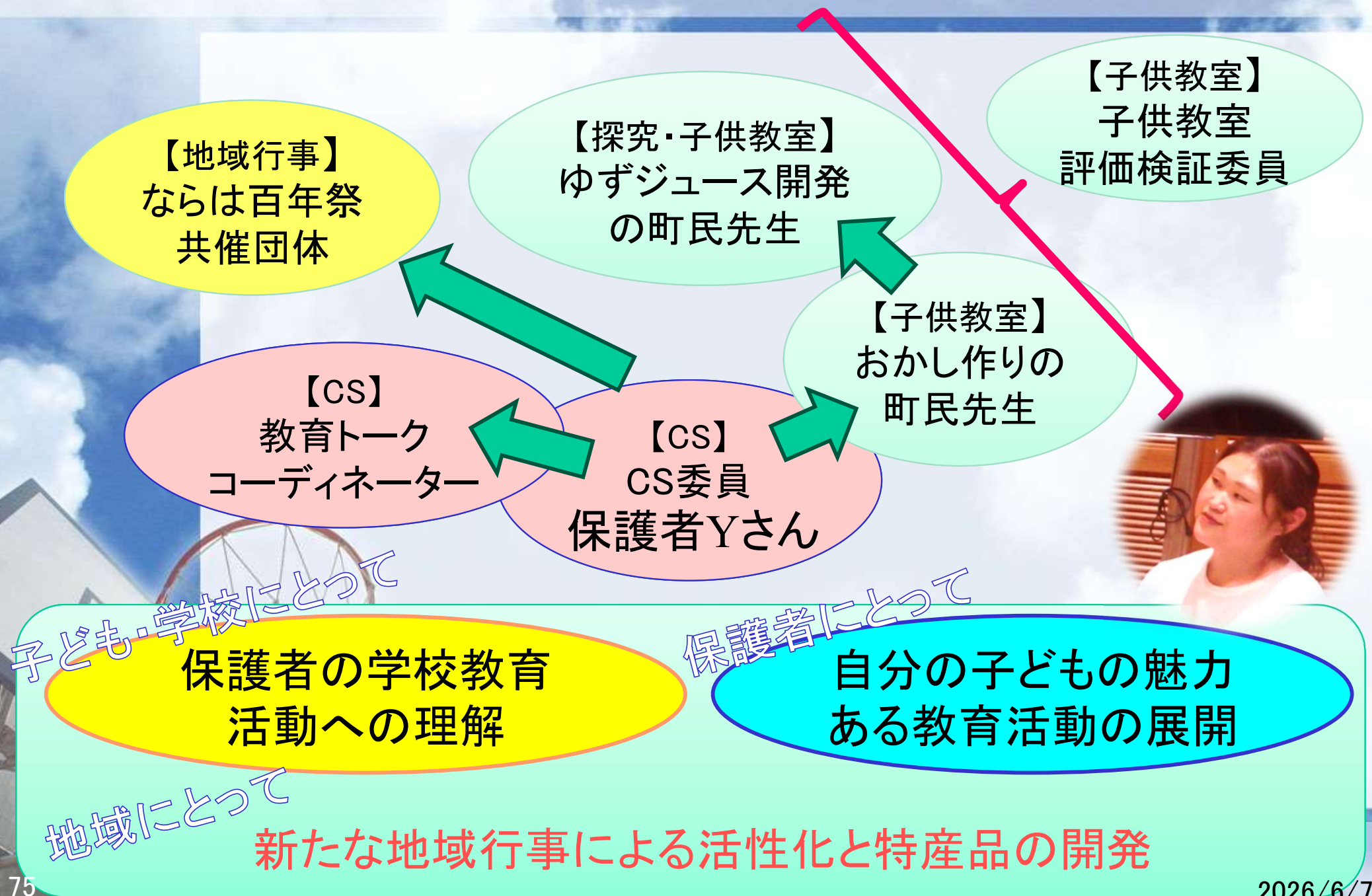
学校も新しくスタートしたんだし、もっといろいろなことを学校でしてほしいなあ・・・



・協働活動やCSへの関わり方

- ①こども園の保護者代表として、**CS準備委員会**に参加
- ②小学校のPTA会長として、**CSの委員**になり活動
- ③仕事であるお菓子作りの放課後子供教室の町民先生として活動
- ④**教育トーク**を立ち上げ、熟議の世話人として活動
- ⑤**放課後の探究活動**のゆず商品開発で協働
- ⑥商品開発したゆず製品を**地元のお祭り**などで協働して販売活動

保護者Yさんの方の参画と変容

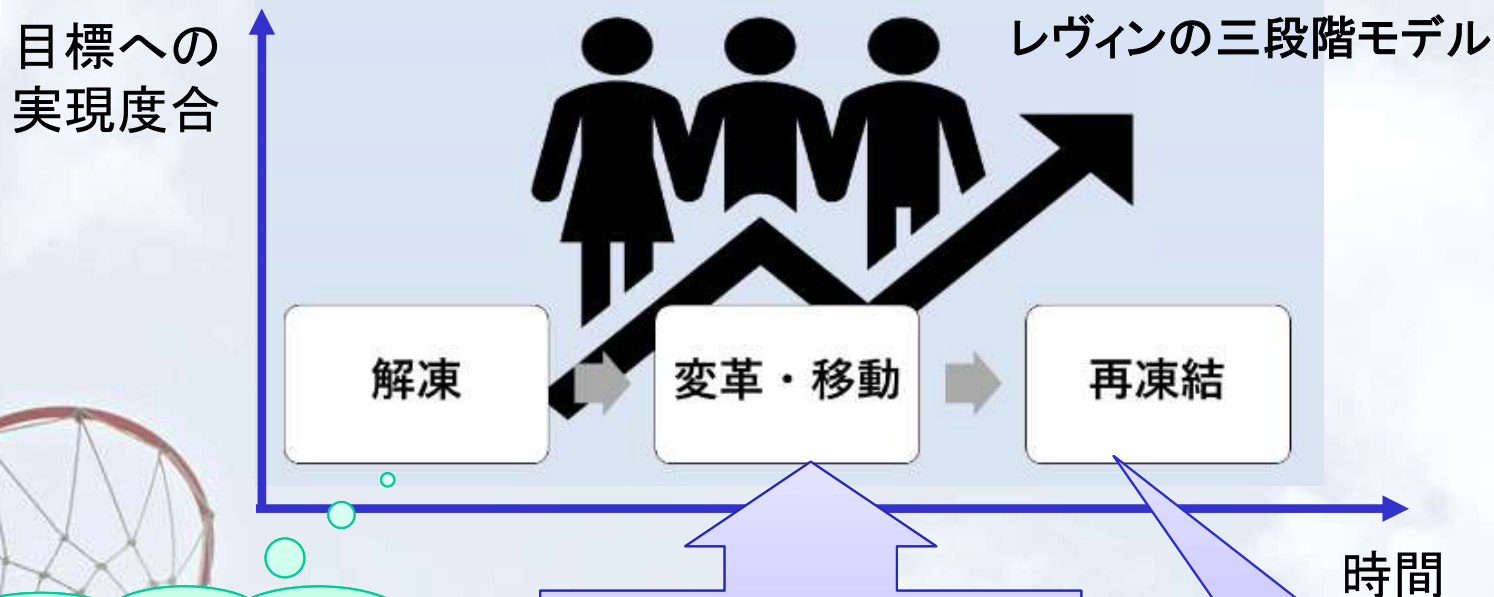


地域と学校の関係性のマインドセット

マインドセット
の変容

「子どもの教育は学校がすべきものだ」

＋ **教育＝学校**を基盤に行動の規則



学校だけが子どもの教育を担うのは、
限界があるんじゃないか？

目の前の子どもたちを地域の子として、
もっと主体的に育てるべきでは？

現代における地域の教育力の向上に向けて、
地域内の考え方や行動を少しずつ
変革させていく。



子どもの育ちにと
っての地域の重要
性だけでなく、地
域づくりにとっても
大切なのだ!!!

「地域政策」としてのコミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の展開の先にあるもの

小さな成功体験の積み重ね

子どもや学校、地域、家庭からのフィードバック



「地域の活動に参画している」「地域の役に立っている」という自覚や自負心



シビック・プライドの形成

… 地域に対する愛着・共感（心情・思い）

＋ 地域の課題解決や活性化など、
具体的な行動に取り組む姿勢

重要!!!

地域住民のシビック・プライドが地域をつくる!!!

地域住民にとっての
様々な階層でのWIN-WINの実感

私

自分にとって、「やってよかった」という**お得感**

- ・生きがい
- ・コミュニケーションの楽しさ
- ・学びのアウトプット
- ・人間関係の形成と深化
- ・活動の継承
- ・地域の活性化など

地域等でのつながりなど、
波及的に感じる**充実感**

- ・保護者など人間関係の広がり
- ・他の地域活動への広がり
- ・コミュニティの形成

地域づくりに参画して
いるという**自負心**

- ・高次な意義や価値への気づき

**シビックプライド
の形成**

地域に対する愛着・共感
(心情・思い) +
地域の課題解決や活性化など、
具体的な行動に取り組む姿勢

公

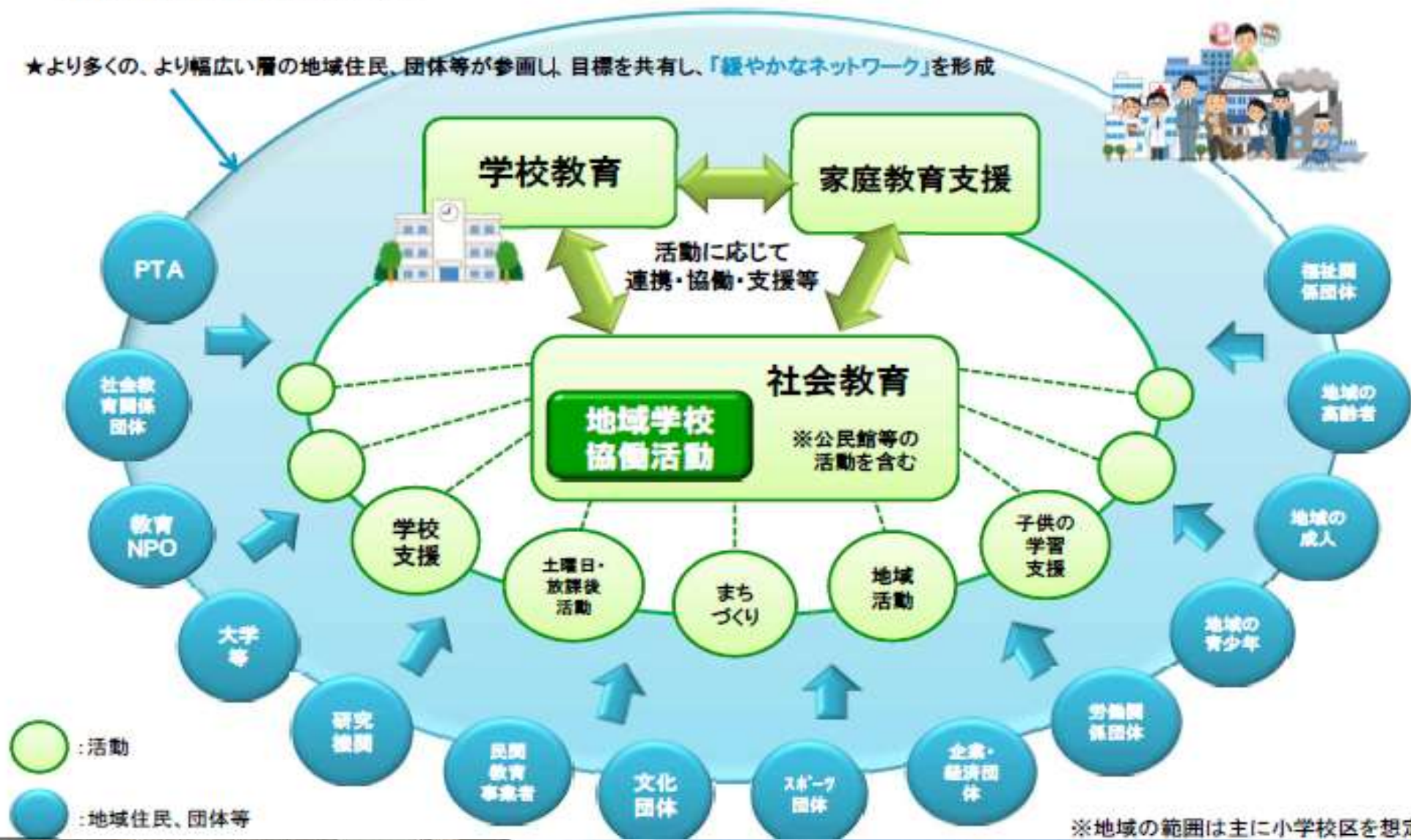
目指すのは地域のネットワーク化!!!

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

資料3-3

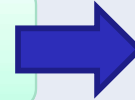
- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成



コミュニティ・スクールや地域学校協働活動と 親和性の高い「防災」

防災をテーマとすることのよさ



連携協働の切実感

- ① **生命を守るため**という非常に強い切実感をすべての関係者が持ちやすい
- ② 「教職員の働き方改革」「地域の伝統の維持」など、学校や地域いずれかの負担軽減のためという**不公平感が持たれにくい**。
- ③ **被災時に学校は避難拠点等になる**可能性が高いことから、教職員にとっては地域との連携協働の必要感を持ちやすい。地域住民にとってもまさかの時には学校を利用するため、学校施設への関心を持ちやすい。
- ④ 行政職員や学校管理職が**地域の防災計画と学校の防災計画双方を知る**ことの重要性や、マッチングの必要性を持ちやすい。

コミュニティ・スクールを活用した防災・減災のまちづくりの取組

第1次国土強靱化実施中期計画（令和7年6月6日閣議決定）【抜粋】

基本的な考え方：「地域コミュニティの強化や平時のウェルビーイングにもつながっていく様々なフェーズフリー対策の活用」

第4章 推進が特に必要となる施策

（5）地域における防災力の一層の強化

「学校施設の安全確保、教育活動等の早期再開、避難所等としての役割を果たすための耐災害性強化」、「国民の防災意識の向上」

【岩手県大槌町】CSによる教育活動を通じた地域コミュニティの復興

小中一貫教育を核とした教育課程（ふるさと科）の実施と 学校課題解決に向けた体制の構築

東日本大震災後、学校の課題解決に向けて小中一貫教育、CSを導入

○教育環境の復興

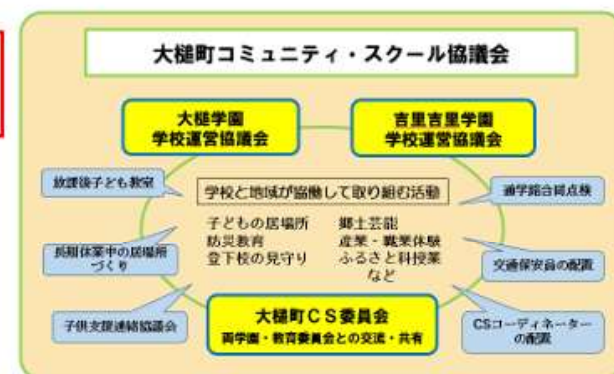
→安心して学べる新しい学校の建設

→9年間の継続性を持った心のケア

○学校だけでは解決できない課題解決への取組

→学校・家庭・地域住民の連携・協働でつくる教育

＜大槌町の小中一貫教育＞



【熊本県】地震の経験を踏まえ、全県立高校に「防災」に重点を置いたCSを導入

※令和4年度に全ての県立高校・特別支援学校が防災を含めた総合型CSに移行済み

特徴的な活動

- ◆ 専門家や地域の意見を踏まえた学校防災マニュアルの策定
- ◆ 地元市町村との避難所指定の協定締結
- ◆ 学校と地域の合同防災訓練や避難所運営シミュレーション等の実施

◆ C S 導入状況（県立高校）

H28: 2校 → H29: 50校（100%）

◆ 避難所指定の協定締結数

42校（R6年1月時点）

コミュニティ・スクールを活用して、平時から、学校・地域が協働して
防災・減災のまちづくりに取り組む体制を整備



地域学校協働活動× 防災教育のパターン

学校ベースタイプ

学校の防災活動に
地域住民や地域団体が参加

【長所】

- ・児童生徒全員の防災力が高められる。
- ・多くの教職員が地域住民や地域団体とつながるきっかけとなる。
- ・地域が学校を知るきっかけとなる。

地域ベースタイプ

地域の防災活動に
学校教職員と児童生徒が参加

【長所】

- ・地域コミュニティの形成につながる。
- ・学校教職員が避難拠点となった学校の避難所運営のシミュレーションができる。
- ・学校教職員の地域理解につながる。

地域と学校相互の理解が高まり、絆が強まるとともに、双方の役割が意識され、被災時における連携協働につながる。

【難点】

- ・ウィークデーに実施しがち。
- ・地域の参加が得られにくい。

【難点】

- ・土曜日や日曜日に実施しがち。
- ・学校教職員の参加が得られにくい。

理想は学校・地域それぞれの防災活動に、教職員と地域団体が互いに参加し、協働関係を構築すること。

地域学校協働活動で充実する学校での防災教育



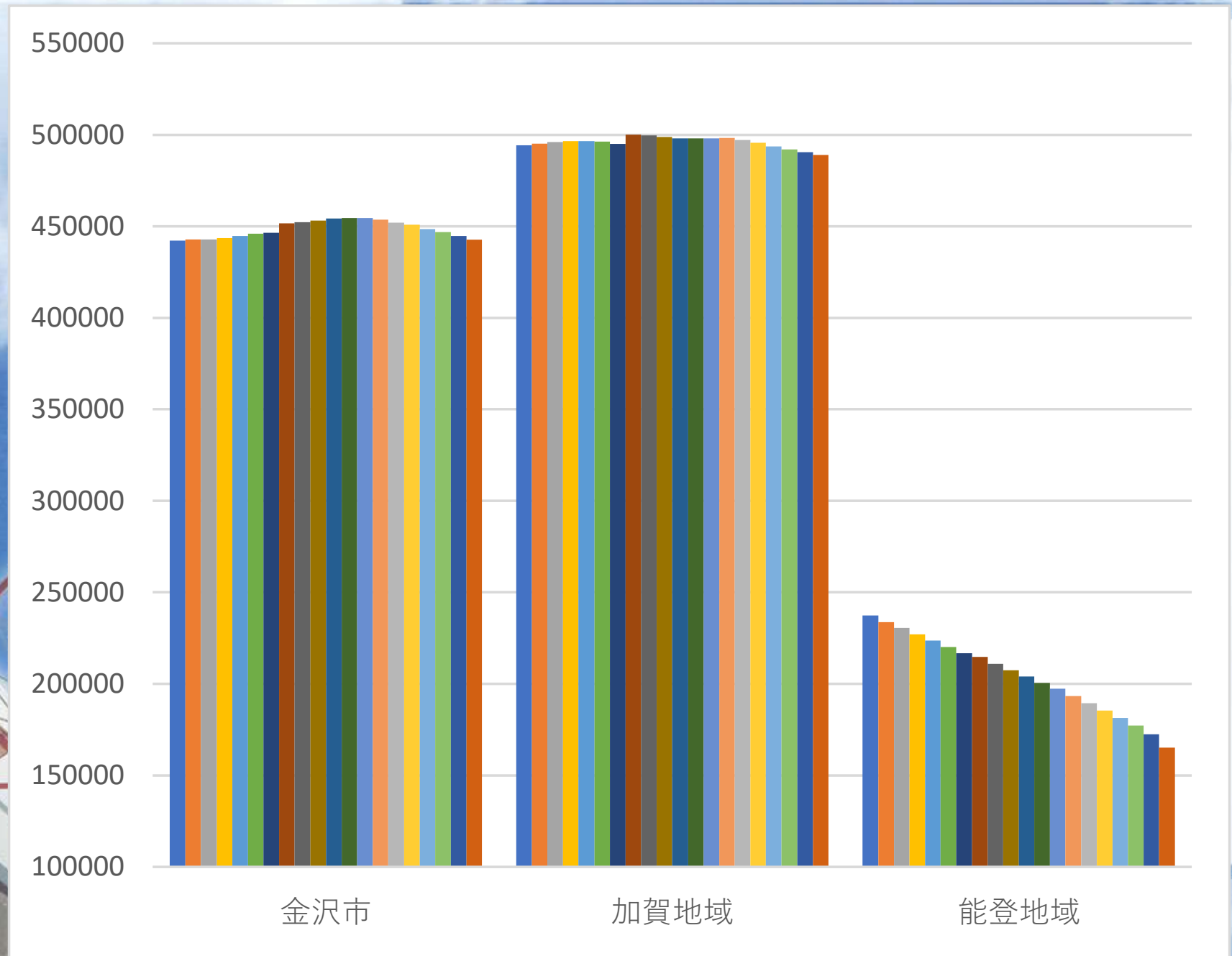
地域学校協働活動で充実する学校での防災教育



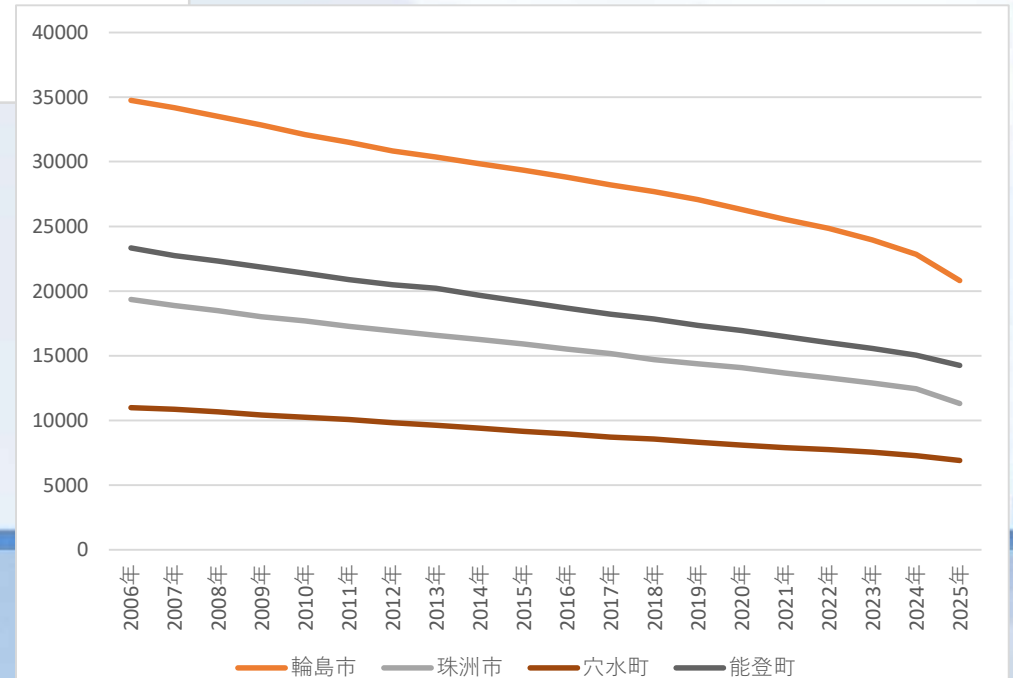
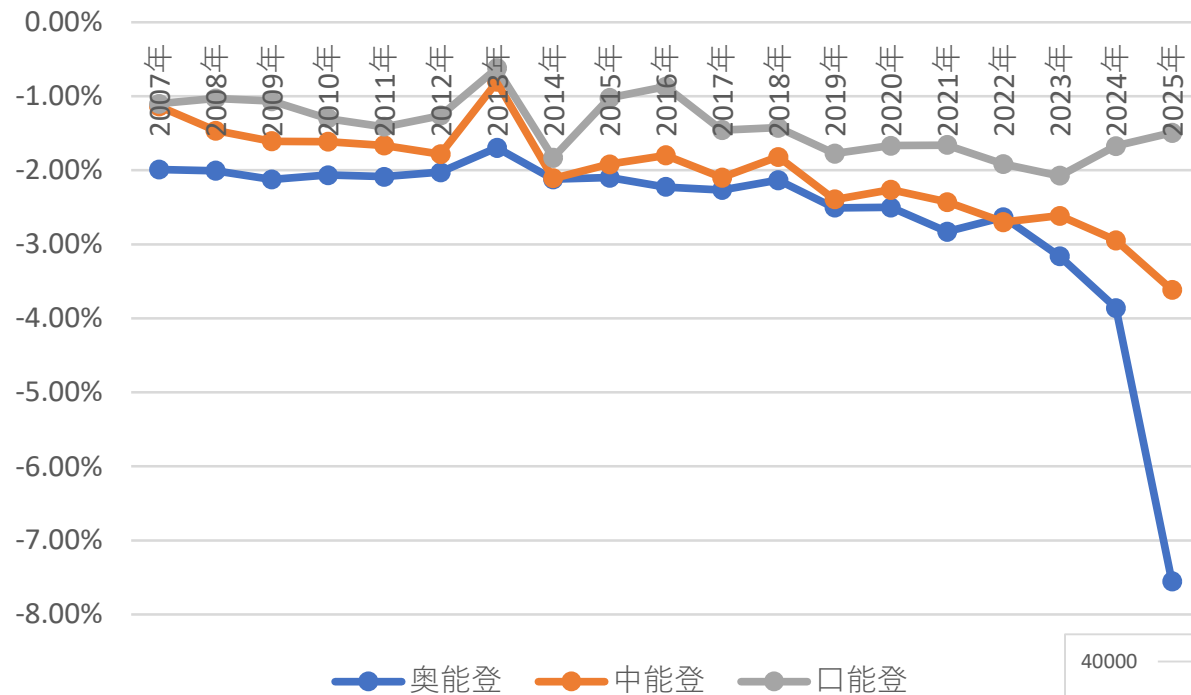
地域学校協働活動で充実する地域での防災活動



地震と豪雨という複合災害による能登の実状



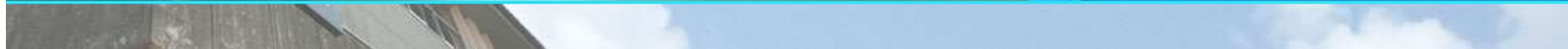
地震と豪雨という複合災害による能登の実状













避難者の皆様

仮設住宅入居の皆様

体育館でのスポーツ活動について（お願い）

小学校体育館が避難所として閉所されたことにより
5月下旬頃より市内スポーツ団体（中学校部活動・
スポーツ少年団等）が当面の間、16時～20時で体育館
を使用いたします。

スポーツ活動を行う際は、掛け声等で音がでることが
想定され避難者及び仮設入居者の皆様にご迷惑をおかけ
することとなりますが、市内の子どもたちの前向きな活
動にご理解・ご協力を何卒、よろしくお願いいたします

一緒に花を 育てましょう

団地、学校避難所にお住まいの

方々と子供たちで一緒に育てる
花壇にしていきましょう。

平日は小中学生がします
休日や夏休み中の
水やりに、ご協力ください



石川県 三行詩コンクール



かわってしまったのとの道
ガタガタでこぼこ
のとのばあちゃんち
かわらないニコニコばあちゃん

能登地震初めて知った
電気なし水なしのつらさ
家族の笑顔で前進できた

一番守るべきはわが子の笑顔
ただ、そのために前を向く
あの日から、これから

①能登地方の被災実状を踏まえたCSと協働活動

①多くの家屋が全壊・半壊・焼失したことで、避難所で暮らしている人々が多い。復興公営住宅に集会所がないなど、コミュニティ形成の場が少ない。

→市外移住者のコミュニティ形成や、避難先とのコミュニティ形成などを協働活動を核として推進する。

②小中学校の校庭に復興公営住宅が建設されており、学校と共存する形となっている。

→学校敷地内に地域住民がいることを活かし、学校教育に積極的に地域と協働したり、中長期的な学校施設の活用や仮設との共存などをCSで議論したりする。

②能登地方の被災実状を踏まえたCSと協働活動

③災害ボランティアとして活動する県外の団体との協働関係が進んでおり、がれきの撤去などで地域の力が求められている。

→キーマンである県外の団体が撤収した後、地域雇用の人材を推進員にしたり、地域の在り方をCSで議論したり、団体の中で移住者として残る人々を巻き込んだりする。

④学校の被害は軽微であるものの、通学路で危険個所が多い。

→通学路の見守りや修理箇所の洗い出しなどで、地域と学校が協働する必然性を活かし、協働活動として高める。

⑤中学生が地元を盛り上げる活動を展開し始めている。

→積極的に活動をアシストし、中高生を巻き込んだ協働活動を推進する。

③能登地方の被災実状を踏まえたCSと協働活動

⑥神社や建造物などの地域のシンボルが被災し、今なお復興の道筋が見えない。

→地域の再生という切り口で単元をデザインし、学校において探究的な協働活動を進めることができる。

⑦避難者が多く、特に外国人留学生の避難者も多数見られている。

→避難者の受け入れ自治体として、避難元と避難先の交流を進める協働活動を推進する。

⑧高校が多く、能登全域から通学したりしている生徒が見られる。

→能登全域を「地域」と捉えることで、高校のCSを推進する機会とすることができる。

コミュニティ・スクールで解決が 進展すると思われる被災地特有の課題（事例から）

- ・ 学校再開を考慮した上での、避難場所としての学校施設の捉えと見通し
- ・ 仮設住宅が設置された状態での学校施設との望ましい共存、施設の利用のすみわけ
- ・ 仮設住宅が設置された学校における地域を活かした学び
- ・ 外部災害ボランティア団体と、地域や学校との関係性
- ・ 震災後の学校安全計画の立案
- ・ 通学路の安全管理と復旧、通学方法の見直し、見守り
- ・ 復興公営住宅などの立地地域と学校との関わり
- ・ 避難家庭の放課後や週末の居場所作りや学びの場づくり
- ・ 被災家庭への学校や地域の支援と配慮、心のケア
- ・ 地域の防災や減災をテーマとした総合的な学習の時間の計画
- ・ 防災や地域との連携担当などの校務分掌の見直し

地域と学校の協働連携の可能性を感じた 能登地震と能登豪雨での出会い

輪島市 門前笑工会 澤田さんの言葉



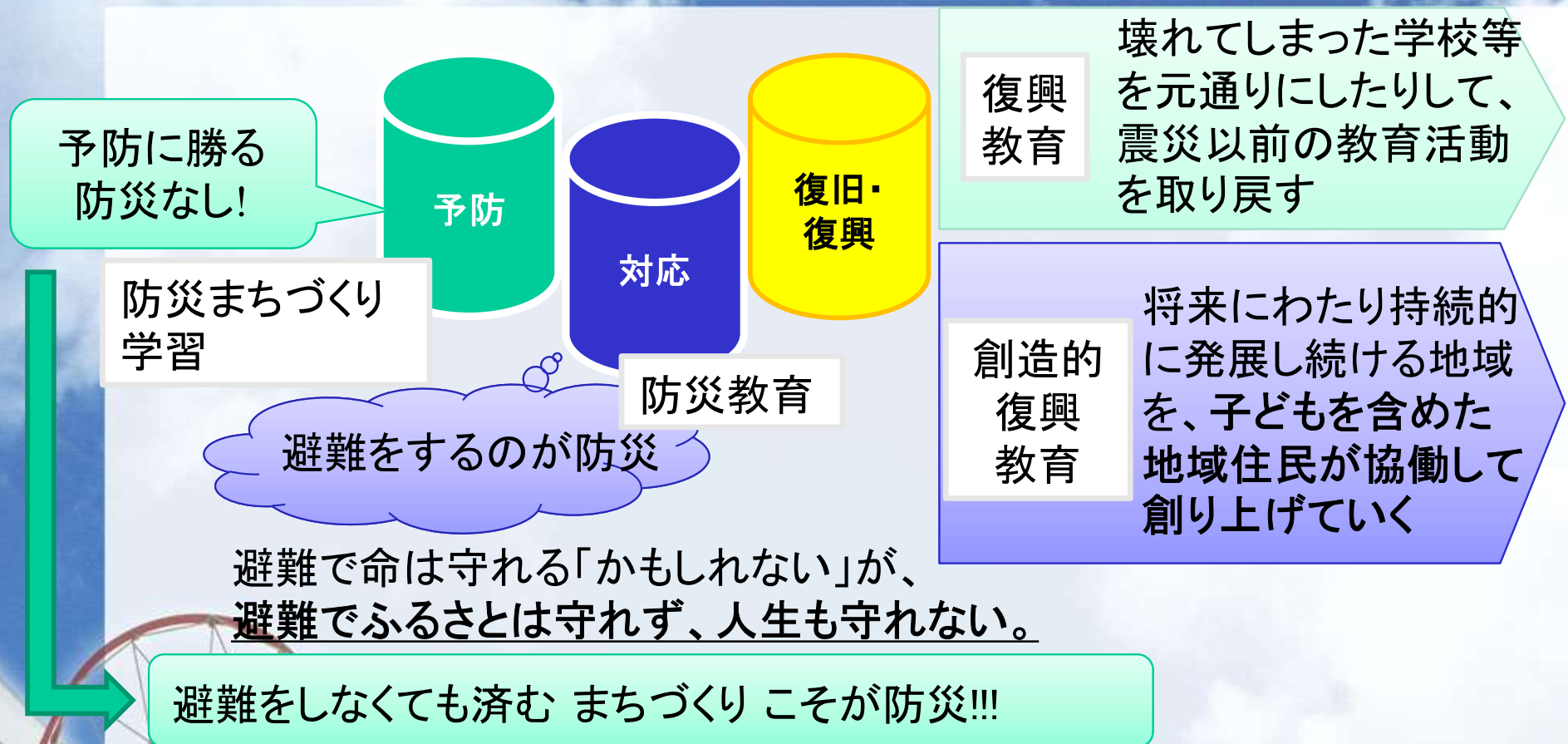
「子どもたちの声が聞こえないのが、一番さみしい。子どもたちの声はつらい目の前の現実があっても、前を向かせてくれるから。勇気が出るから。」

仮設住宅に避難なさっていた輪島市のAさんの話



「地震と豪雨ですべて奪われてしまった。でも、仮設に住んでいて一つだけよかったと思うことがあります。あの地震があって、仮設に入ったからこそ、豪雨で私は生き延びられた。不幸の連続だったけれど、お互い様の大切さをこの年になってこんなに実感するとは思いませんでした。」

防災教育・復興教育・防災まちづくり学習



子どもたちが防災まちづくり学習を経て、防災まちづくりの創り手となることの重要性

【現在】子どもから家庭、地域へと**防災意識が浸透していく**ことが期待できる。

【未来】巨大災害が起こる日の中核世代として、**被害量を減らせる**可能性がある。

復興まちづくりプロジェクトの概要

輪島市門前町×檜葉町 復興交流プロジェクト

【これまで】防災教育的視点

語り部から聞いたり、震災遺構を見学したりして、
町に起こった震災の概要について「**過去**」から学ぶ

伝承
過去
他人事

【これから】防災まちづくり的視点

能登の「**現在**」の災害について、**多角的な視点**
(**人の生き方・生活・教育・地域・社会・自然**)から、
五感を伴って触れる体験を通して、**災害について**
実感を伴った理解をし、「過去」に町に起こった震災とその
影響についてもより直感的に、より自分事としてとらえ、こ
れからの防災まちづくりに活かす。

リアル現在
自分事

福島を十七字で奏でよう

塩むすび にぎり続けた 手が赤い
被災地で 心にしみる 塩むすび

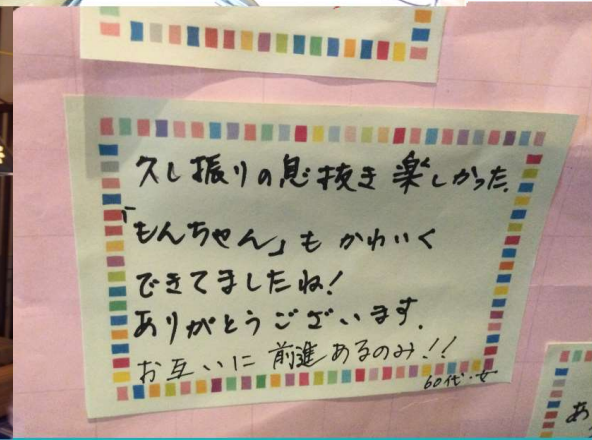
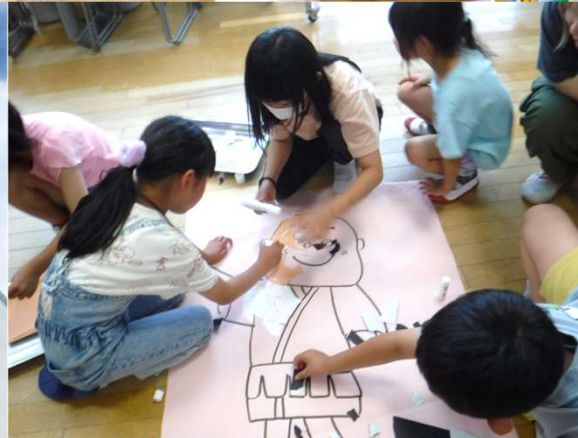
ばあちゃんの さみしさまぎらす 野菜たち
笑顔出る ひ孫と一緒にの 土いじり

野馬追いに 小高の思い出 よみがえる
法螺貝に 音色わが子と 懐かしむ

さびしいな となりのおばちゃん 帰ってく
復興と 言う名の別れも さみしくて

浜通り 新たな産業 期待して
未来への ふくしまつなぐ ロボットよ

大学生から能登の実状を聞き取り、 応援活動をスタート



定期的にやり取りしながら、ニーズをきき、 被災地の人々に寄り添うよう努める



町の商工会や振興公社などの地域団体と 協力して募金や物販活動を展開



能登の自然を活かした作品作りで、檜葉と能登 が思いを共有できるストラップづくり



1.1と3.11の互いの町のキャンドルナイトに 向けたキャンドルホルダーを協働して作成



地域のデザイナーとともに輪島市門前町仮設 笑店街のオープン祝いのシンボルマークづくり



輪島市で使用するゆずのバスボムづくりと 活動予定の足湯とハンドマッサージを練習



輪島の皆さんに振舞うマミーすいとんを 檜葉でも地元団体とともに作って練習



子どもたちの中で高まり、具現化される

「次は輪島のために、檜葉のためにこれをしたい!」という思い

【動機】12月に門前を訪れた時、門前商店街の人たちがぼくたちの来訪を心から喜んでくれたとともに、門前に子どもたちの姿が見えず、澤田さんたちの「子どもたちの笑顔や声が元気になる」と言っていたのに、その子どもが商店街にいなかったことで、何かしたいと感じた。

【思い】檜葉も同じ状況だったけど、今はこども教室ができて、たくさんの子どもと地域の大人と一緒に活動するようになったから、同じようにこども教室を門前でもやって、門前の皆さんにも門前の町にも、もっと元気になってほしい!!!

【動機】これまで親があまり語ってこれなかった東日本大震災の被害や避難生活の大変さについて、能登の震災の様子を見たことで実感した。自分と同じように全町避難していた檜葉の子どもたちは震災の大変さについて、ぼくと同じようにきちんとわかっていないと思うから、わかったほうがよいと思った。

【思い】もっと多くの檜葉の人たちに、能登の現状にふれてもらって、防災や減災に対する意識を高めてもらい、檜葉町で災害に強いまちづくりを進めたい。そして、今、震災で大変な中がんばっている輪島の人たちともっと多くのことたちに交流してもらって、門前によりそった支援を続けてほしい。



地域学校協働活動による子どもたちの自己実現

子どもたち主体の「その先」のプロジェクトへ

(1) 風英プロジェクトについて 【**檣葉**での復興の実践を門前で活かす】

- ▶ **【活動のねらい】** 門前でこども教室を核とした地域学校協働活動を**門前高校や子どもたちと一緒に企画**し、当日、門前の子（学童保育や幼児を主対象）を呼んで商店街や仮設住宅の人たちと一緒に活動して、**町を盛り上げ、笑顔になってもらう。**
- ▶ **【内容】** ①教育委員会や学校、学童クラブなど、協力者を募る。②協力者とともにイベントを企画する。③夏休みにイベントを門前商店街で開催する。
- ▶ **【今後】** 門前でもこども教室をやってもらい、町を盛り上げてもらう。

(2) 風翔プロジェクトについて 【**門前**の実情を通じて**檣葉**の防災に活かす】

- ▶ **【活動のねらい】** 檣葉で**門前視察バスツアー**を企画して、檣葉の親子や地域の人たちとともに門前を訪れて、災害について学び、**災害に強いまちづくり**に生かしてもらう。また、**門前の人たちの大変さががんばりにふれ**、これからの支援につなげてもらう。
- ▶ **【内容】** ①教育委員会や商工会、くらし安全対策課など、協力者を募る。②協力者とともにバスツアーを企画する。③冬休みにバスツアーを門前で開催する。
- ▶ **【今後】** 門前への支援活動を町内でやるとともに、檣葉の各家庭での防災に活かしてもらう。

(1) 風英プロジェクトについて 【**檣葉**での復興の実践を門前で活かす】

《保護者の経験を踏まえて》

- ▶ **【新たな想い】** 避難している人にとって、子どもたちが楽しんでいる姿が嬉しいと言っていたから、**小さい子どもたちも来やすい楽しい活動をしたい。**また、一緒にやる中高生とは、当日だけでなく、**事前の活動を通じて、仲を深めて、中高生も元気づけたい。**
- ▶ **【具体的な活動のイメージ】** **夏祭り**を企画して、ヨーヨー釣りやくじなど（全部無料で）を出店することで、親子できたり、**おみこしと一緒に作って**、輪島の地域の人とも交流できるようにしたい。場所はたくさんの人が参加できるようにできたら仮設住宅の集会所でやりたい。

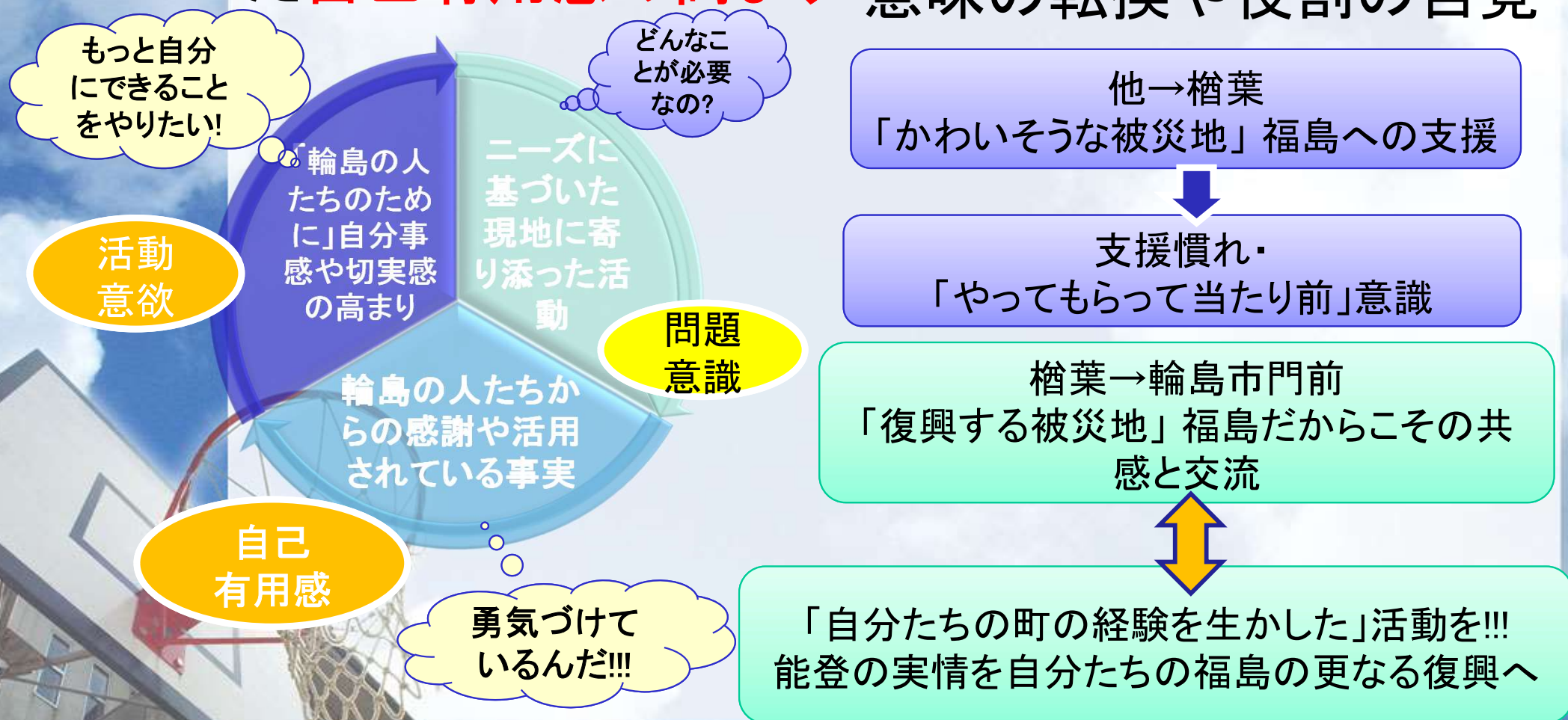
(2) 風翔プロジェクトについて 【**門前**の実情を通じて**檣葉**の防災に活かす】

《保護者の経験を踏まえて》

- ▶ **【新たな想い】** 震災を乗り越えた檣葉の大人と門前の大人が交流することで、門前の人たちにとっても、**これからに向けて「大丈夫なんだ」と少しでも安心してもらいたい。**弟や妹など、震災を知らない小さい子にも**「自分だったら」という視点**で考えてほしい。
- ▶ **【具体的な活動のイメージ】** 何のために、だれに、どんなところを見たり、かかわってほしいかをしっかり考えた見学の場所をつくっていきたい。
①地震は一瞬ですべてを変えてしまう→黒島漁港で生命が絶たれた海の生き物の姿②賑わいが奪われてしまう、しかし負けずにがんばる人々→門前商店街のかつての姿と今の仮設商店街の様子③被災したらどのような生活になるのか→被災した学校と仮設住宅④輪島の人たちの暮らしの**大変さ**→かつての震災の苦労を共感

プロジェクトを通して育つ福島の子どもの姿

自己実現と交流を通じた**自己有用感の高まり** 「福島」に生きることの
意味の転換や役割の自覚



子どもが創る町の姿とは



子どもたちの想い

連携・協働

連携・協働

保護者

実現させようという
檜葉の大人の想い

商工会

センター

振興公社

連携・協働

実現させようという
輪島市門前町の大人の想い

商店街

地域おこし協力隊

地域
住民

復興
支援者

檜葉町のまちづくりへ

防災くにづくりへ

輪島市門前町
のまちづくりへ

次代の創り手である子どもたちを核として、
まちづくりを今から推進する



ご清聴、ありがとうございました!!!

皆さんの実践を基に、地域学校協働活動として
多様な活動と連携して進めていくことは、

**目の前の子どもたちが生きる「地域」
をつくることにつながります!!!**

多様な地域住民が「地域の未来のために」という
共通の目的をもって、様々な形で、無理なく、
気軽に参画できる姿が見られるといいですね。

